

# 国立国会図書館



館長対談 第3回  
 米国議会図書館副館長 ディアナ・マーカム氏

## 図書館の役割と未来

開館60周年記念連載 第7回  
 進化する展示会と主題情報提供

世界図書館情報会議  
 -第74回国際図書館連盟 (IFLA) 大会  
 国境なき図書館 - 国際理解への航海

2008.12  
 No. 573

# 国立国会図書館利用案内

## 東京本館

所在地 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1  
電話番号 03(3581)2331  
利用案内 03(3506)3300(音声サービス)  
03(3506)3301(FAXサービス)  
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>  
利用できる人 満18歳以上の方  
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。  
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)  
おもな資料 和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

### サービス時間

開館時間	月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室および古典籍資料室の開室時間は17:00までです。	即日複写受付	月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:00
資料請求時間	月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室および古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。	後日複写受付	月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30
		オンライン複写受付	月～金曜日 10:00～17:30 土曜日 10:00～15:30

■見学のお申込み／国立国会図書館 資料提供部 利用者サービス企画課 03(3581)2331 内線26111

## 関西館

所在地 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3  
電話番号 0774(98)1200(音声サービス)  
利用案内 0774(98)1212(FAXサービス)  
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>  
利用できる人 満18歳以上の方  
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。  
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)  
おもな資料 和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

### サービス時間

開館時間	月～土曜日 10:00～18:00	即日複写受付	月～土曜日 10:00～17:00
資料請求時間	月～土曜日 10:00～17:15	後日複写受付	月～土曜日 10:00～17:45
セルフ複写受付	月～土曜日 10:00～17:30	オンライン複写受付	月～土曜日 10:00～17:00

■見学のお申込み／国立国会図書館関西館 総務課 0774(98)1224 [直通]

## 国際子ども図書館

所在地 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49  
電話番号 03(3827)2053  
利用案内 03(3827)2069(音声・FAXサービス)  
ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>  
利用できる人 どなたでも利用できます(ただし第一・第二資料室は満18歳以上の方)。  
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。  
開館時間 火～日曜日 9:30～17:00  
休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は開館)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)  
※第一・第二資料室は、休館日のほか日曜日に休室します。メディアふれあいコーナーと本のミュージアムは、行事等のため休室することがあります。  
おもな資料 国内外の児童図書・児童雑誌、児童書関連資料

■見学のお申込み／国立国会図書館国際子ども図書館 03(3827)2053 [代表]

## 支部東洋文庫

所在地 〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-21  
電話番号 03(3942)0122[代表]  
おもな資料 欧文、アジア諸言語で書かれた東洋全域に関する資料、モリソン文庫、岩崎文庫、チベット文献等

## CONTENTS

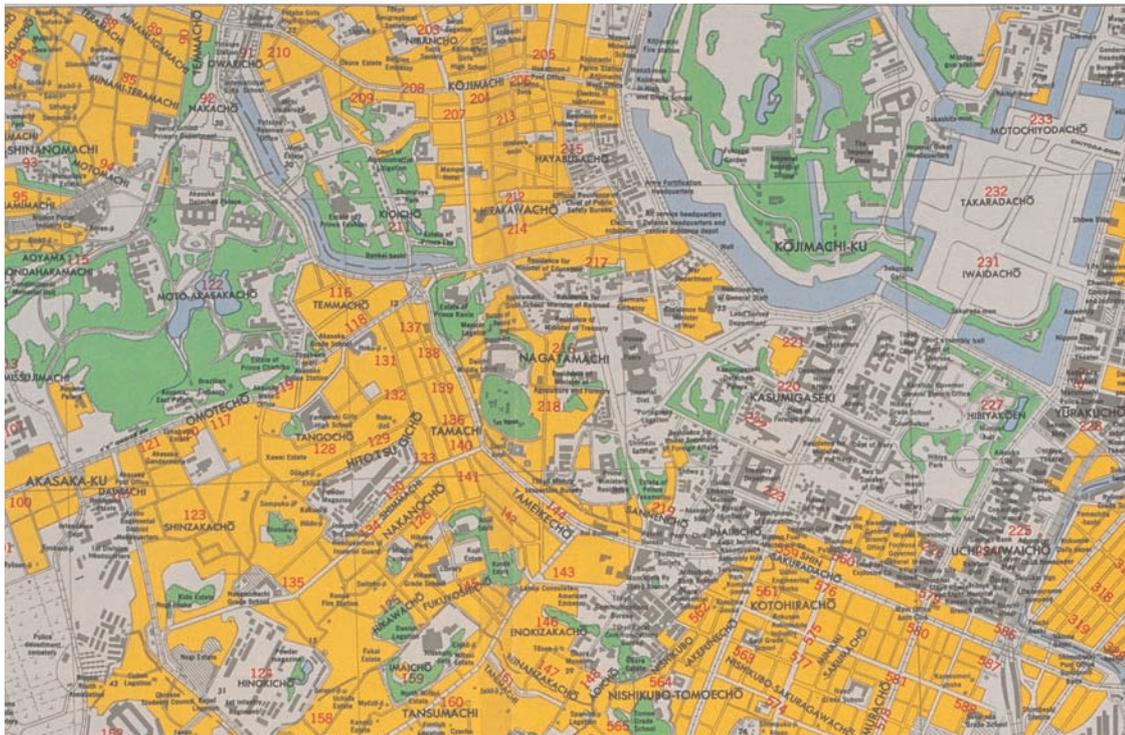
- 02 Japan City Plans “NIHOMBASHI”  
—米国陸軍地図局（AMS）作成の地図と日本  
今月の一冊—国立国会図書館の蔵書から—
- 04 国立国会図書館 館長対談 第3回  
米国議会図書館副館長 ディアナ・マーカム氏 図書館の役割と未来
- 10 国境なき図書館—国際理解への航海  
世界図書館情報会議—第74回国際図書館連盟（IFLA）大会
- 12 国立図書館における評価と評価指標の活用—国立図書館分科会
- 13 民主主義のパートナー—議会への図書館・調査サービス分科会
- 14 21世紀の保存課題—資料保存コア活動、IFLA 資料保存分科会関連会議
- 16 書誌情報、電子図書館の基準づくり—書誌分科会・目録分科会
- 17 ヤングアダルト（YA）サービスの展開—児童・ヤングアダルト図書館分科会
- 19 電子情報時代のグローバルな連携—第35回国立図書館長会議（CDNL）
- 20 数字で見る国立国会図書館—『国立国会図書館年報 平成19年度』統計から
- 22 開館60周年を記念して  
「1998-2008」この10年のトピックスと今後  
第7回 進化する展示会と主題情報提供
- 30 新指定貴重書のご紹介 第43回貴重書等指定委員会報告
- 35 使う人がいる 守る人がいる (11) 図書（無線綴じ資料）

- 
- 28 本屋にない本  
○「西洋語まなび事始め 香川大学図書館一般公開行事 神原文庫資料展」
- 29 館内スコープ 海外からの Gift—寄贈と国際交換
- 36 NDL NEWS  
○国際インターネット保存コンソーシアム（IIPC）ウェブストーミング・セッション  
○日本資料専門家欧州会議（EAJRS）第19回年次総会  
○「近現代日本政治資料」に関するワークショップ  
○日中韓三国交流「デジタルアーカイブ事業における日中韓連携」
- 39 お知らせ  
○平成20年度「児童文学連続講座—国際子ども図書館所蔵資料を使って」  
○長尾真国立国会図書館長 文化功労者に選出
- 41 『国立国会図書館月報』年間索引  
○公開講演会「目録の現在とこれから—“目録の危機”の時代からの展望—」  
○国際子ども図書館 学校図書館セット貸出し「東アジアセット」、「東南アジア・南アジアセット」の貸出開始  
○新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物

国立国会図書館の蔵書から

# Japan City Plans “NIHOMBASHI”

小川那瑠



地図内に示された赤い数字は、地図裏面の地名一覧と対応している。たとえば217を参照すると、現在、国立国会図書館があるNagatamachi 1 cho-meだとわかるようになっている。

新聞紙よりも大きな1枚の紙の上に、黄色く彩られた街並みが広がる。なんとも鮮やかな地図である。

この地図のタイトルは“NIHOMBASHI(日本橋)”。1946年に旧米国陸軍地図局 (U.S. Army Map Service : AMS) により作成された、縮尺1:12,500の“L902 Japan City Plans”シリーズの1枚である。欄外の記載によると、この地図は1930年代から1940年に日本で刊行された多数の地図を参考としつつ、1945年の1月から5月に撮影した航空写真を図面化・編さんされたことがわかる。すなわち、この色鮮やかな地図には、太平洋戦争終戦時の東京の街並みが描かれているのである。

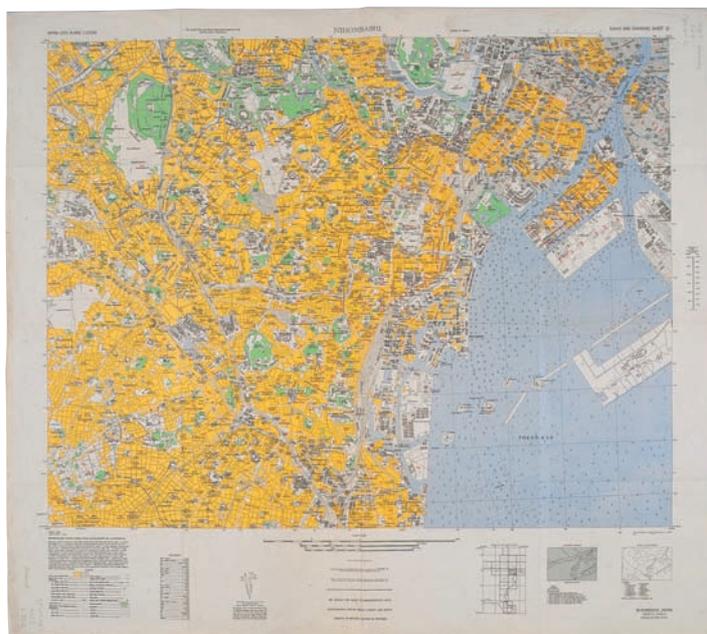
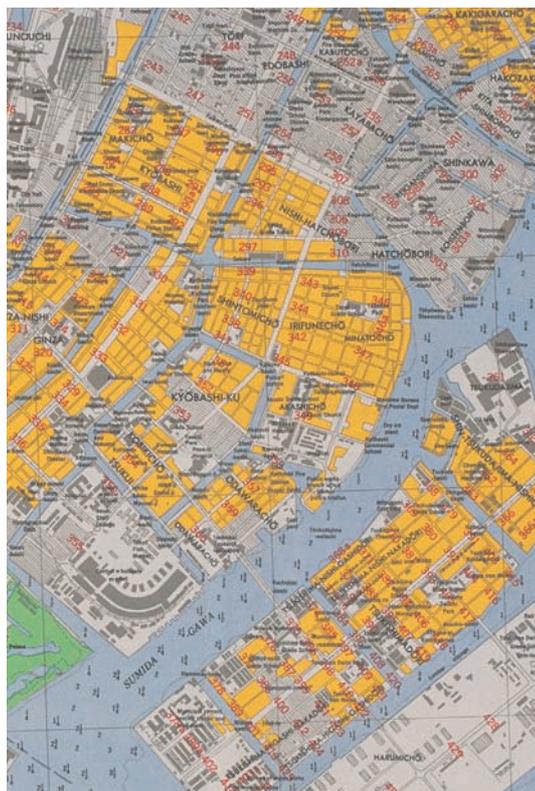
この地図を作成した米国陸軍地図局とは、その名の通り、米軍の軍事作戦に供する地図を作成する機関である。

戦時中においては、日本の官製地形図を複製し、ローマ字による地名表示等、軍の作戦に必要な情報を加えた軍事用の地図を作成していたことが知られている。こうして作成した日本国土の地図類は戦時中に利用されたのみならず、占領政策の一環として、新たに撮影した航空写真による修正が加えられ、戦後も更新が続けられた。

こうした地図作成の実作業は、占領下の日本国内で行われていた。この任務にあたった第64地形技術大隊は、当初、接収した新宿の伊勢丹デパートの3階以上を本拠地として地図作成業務を行っていたというからまた驚きである。

後にこの組織は東京・王子キャンプ内に移転し、極東米国陸軍地図局 (U.S. Army Map Service Far East : AMSFE) へと組織を再編した。1966年に王子から撤収

# 一 米 国 陸 軍 地 図 局 (AMS) 作 成 の 地 図 と 日 本



(左) 部分拡大図 (上) 全体図  
図のタイトルでもある日本橋区 (現在の東京都中央区) 付近には、随所に爆撃された場所を示す「Bombed Area」(灰色斜線部)が存在し、痛ましい傷あとを見せている。実地調査によるものではなく、航空写真で判断したためか、実際の被災地域とは多少ズレがある。隅田川・東京湾内の黒い数字は水深を表す(単位はフエジム:1フエジム=6フィート≒1.83m)。一般的な市街図ではまず記載されない事項であり、軍の地図らしい特徴だといえる。

するまで、米軍の国外最大級の地図作成機関として機能し、東南アジアからシベリアに至る地図を作成していたようである。また、1964年時点で、実に950人も日本人が従事していたことが記録に残っており、作成に携わった多くの日本人技術者は、その後の日本の地図業界の発展に大きな影響を及ぼしたともいわれる。

このように、AMSと日本との関わりは深く、関連する地図も多岐にわたる。その一方で、軍事用の地図という資料の性格上、これまでの日本地図史上ではこれらの地図に言及されることは少なく、体系的な研究もなされていないといえない。今後の研究が待たれている資料群である。

なお、国立国会図書館では、AMSFEが撤収する前後に、資料の寄贈を受け入れている。日本の地図のほかに、世界

100万分1地形図や、東アジア・東南アジア地域の25万分1地形図などがあり、地図室の貴重なコレクションの一部となっている。

“Nihombashi” Army Map Service, 1946.6. (L902 Japan city plans) 1 map : col. ; 86 x 96 cm.<YG717-118>

\*この資料は地図室で閲覧できます。

## (参考資料)

テーマ別調べ案内「AMS(旧米国陸軍地図局)の地図」  
([http://www.ndl.go.jp/jp/data/theme/theme\\_honbun\\_601033.html](http://www.ndl.go.jp/jp/data/theme/theme_honbun_601033.html))

長岡正利「極東米国陸軍地図局(AMS)の事績と貢献」『測量』2005.8 <Z16-136>

清水靖夫「昭和20年代の地図事情と戦災復興院の東京1万分1地形図」『戦災復興期東京1万分1地形図集成・解題』1988.6 <YP6-90>

第 3 回 図書館の役割と未来

# 膨大な情報の中で 人々を助け、案内することが 私たちの有望な役割です

今月のお客様 米国議会図書館副館長 ディアナ・マーカム 氏

今回の対談では、長年、米国議会図書館の運営にたずさわり、来日の経験も多数あるディアナ・マーカム氏に図書館の未来、民間部門との関係、ウェブアーカイブ、社会的なネットワークなどについて、アメリカの状況をふまえ、お話をうかがいました。

**長尾** 今日、図書館が直面する様々な課題についてお話したいと思います。昨年、この図書館にやってきてから、「知識は我らを豊かにする」という標語を掲げ、実現すべき7つの項目を定めました。その中で私が難しいが最も強く望んでいるのが4番目の「利用者がどこにいても、来館者と同様のサービスが受けられるように努めます」ですが、そのためには蔵書をデジタル化して送信できるようにしなければなりません。さらに、公衆送信権の問題を解決する努力も必要です。また、ウェブ情報の収集保存に向けて努力をしていますが、法的な裏づけが必要で、まだまだうまくいっていません。いまや図書館

は、デジタル化、ネットワーク化によって大きな影響を受けていますが、この劇的な状況の変化についてどのようにお考えでしょうか。

**マーカム** 私たちのもっとも有望な役割は、この膨大な情報の中で、人々を助け、案内することにあると考えています。国立図書館は、国の文化、社会、科学の歴史を集める機関です。今後、文化、社会そして知識の歴史が保たれる場があるということがますます重要になり、国立図書館はより重要な役割を果たすことになるでしょう。公共図書館は、少なくともアメリカ合衆国では急速に変化していて、地域センターとしての機能を果たすようになってきています。

**長尾** 米国議会図書館（以下LC）とアメリカの公共図書館との関係はどのようなものでしょうか。

**マーカム** 公式の関係はありません。私たちは伝統的に、また歴史的にも国の図書館です。公共図書館界、学術図書館界とは法的には関係ないわけですが、協力して、私たちのプログラムに関与してもらおうようにしています。学術図書館とは、基準の策定や共同目録作業、大型コレクションの分担収集などで緊密に協力しています。公共図書館との協力では、LCの中に「本のセンター」という組織を設け、すべての州に支部を置き、読書推進や読み書き能力の向上に重点を置いて活動しています。読み書き能力が大きな問題だといわれても信じ難いかもしれませんが。

**長尾** われわれの公共図書館との関係は、図書館員の研修が中心です。職員を研修の講師として派遣することもあります。もちろん資料の貸出しやレファレンスサービスも行っています。公共図書館との関係を強めたいと思っていますが、新しい具体的なアイデアとなると今のところ…。

**マーカム** 私たちは余った本を公共図書館に送っています。著作権登録のために納本された資料が複数部あり、公共図書館が蔵書に加えたいと考える場合にそれを提供するのです。本はオンラインのリストに載せられるので、公共図書館がウェブサイト上で本を選べます。本の送料は、図書館の地元から選出された連邦議会議員が負担します。

**長尾** 図書館とデジタル化の進展との関係に話を戻しますと、私の気になっていることは、Googleなどが本をデジタル化し、本の検索だけでなく、著作権の許す範囲でのことではありますが、本の内容もある程度提供

するようになってきていることで、情報を一般公衆に提供するという図書館の役割と重なる部分が出てきたということです。

**マーカム** Googleはかなり早い段階でLCの蔵書のデジタル化を望んでいました。私たちはGoogleと実験を行うことにし、500冊だったと思いますが、デジタル化を認めただけで、画像の質、ファイルの扱いやすさなどを検証した結果、私たちの基準を満たしていないという結論になりました。それが数年前のことでした。

**長尾** OCRの質があまりよくなかったということでしょうか。

**マーカム** そう、十分ではありませんでした。また、ある企業が影響力を持つてしまうことを懸念したということもありました。結局、Googleには蔵書をデジタル化させないことにしました。その後、状況が変わってきたため、デジタル化したい資料のリスト、デジタル化の基準、使用すべき検索システムを公表して、私たちのルールに従う機関にはデジタル化のプロセスを公開する、というアプローチを考えています。1年前のことですが、学界にコンテンツを公開することに関心を示したアルフレッド・スローン財団から200万ドルの支援を得て、スキャニングセンターを設けることができました。最もよく利用される資料をスキャンして、広く利用できるようにしています。

**長尾** それはフェアユースであるという解釈をとっているのでしょうか。

**マーカム** これまでのところ、パブリック・ドメインにある本だけをデジタル化しています。LCと出版社との委員会を立ち上げ、資料をより広く利用できるようにするにはどうすればよいか対話を始めたところですが、今までに会合が開かれたのは一度だけで、それも

## 長尾

利用者がどこにいても、来館者と同様のサービスが受けられるように努めます。



Makoto Nagao

1936年三重県生まれ 博士(工学)

専門は、自然言語処理、画像処理、パターン認識、電子図書館。

京都大学工学部電子工学卒業、京都大学総長(第23代)、独立行政法人情報通信研究機構理事長を経て、2007年4月から国立国会図書館長。

### 私の問題意識

国立国会図書館は米国議会図書館を参考に作られた。情報社会の進展に伴って、当館は種々の新しい方向を模索しているが、米国議会図書館ではどのような方向に行こうとしているか、情報交換がなかった。特に図書の電子化とウェブ情報の収集は、各国の国立図書館の重要課題となってきているので、これらを中心に意見交換をすることにした。

対話の基本ルールを決めただけでした。

**長尾** われわれも7月末には同じように委員会を作り、どのようなデジタル化や利用が認められるのかについて年末までに結論を出すことになっていますが、デジタル化した資料の利用はおそらくかなり制限されたものになるでしょう。

**マーカム** 私たちの場合も同じであろうと思います。例えば大学のキャンパス内の話であれば、図書館を利用できるのは学生に限られるとってしまうこともできるでしょう。しかし、国立図書館の利用者は国民であり、ごく少数の人だけが利用するのだということができません。それだけに、著作権者との対話は複雑なものにならざるを得ません。

あなたの「ビジョン」はとても気に入りました。図書館がやらなければならないことだと私が考えていることにとても近いからです。もし国民によりサービスを提供しようと考えれば、膨大な量の蔵書をデジタル化しなければならぬでしょう。それには財政状況が許さないため、援助してくれる企業を探しているところなのですが、私たちの最大の関心事は、すべての国民が私たちのサービスにアクセス可能であることです。この点は何らかの商業的な利害関心によって妥協されるべきではないと考えています。

**長尾** それはとても重要ですね。

**マーカム** もし営利企業が本のデジタル化に参入してきたとしても、デジタルファイルの扱いはやはり問題になるでしょう。サーバーを経由して提供するためには、そのサーバーを置く場所が必要になりますし、システムも必要になります。そのコストも予算に見込んでおかなければなりません。個人的には、Googleにデジタルファイルを委ねるようなこ

とはすべきではないと考えています。Googleは優れた企業ですが、おそらく100年後には存在していないでしょう。しかし図書館は100年後も存続しているでしょう。

**長尾** それは我々の使命について国会議員を説得する材料になりますね。

**マーカム** アメリカでは、企業の入れ替わりが常に起きています。それがアメリカのダイナミズムでもあるのですが、図書館の存在意義を強めてもいるのです。

**長尾** マイクロソフトが本のデジタル化をやめたと聞いています。

**マーカム** マイクロソフトと外国コレクションのデジタル化について交渉していたとき、彼らはスキャナーを用意し施設を立ち上げている最中だったのですが、「このプロジェクトを中止することに今日決まりました」と突然電話をしてきたのです。私たちはそのような形で仕事を進めることはありませんね(笑)。

**長尾** 我々はいまウェブアーカイビングを進めるため、比較的大きな規模のシステムを構築しているところですが、ウェブサイトを集める法的な根拠がないので、国会議員や利害関係者への働きかけを強めています。まずは国や地方自治体といった公共機関のウェブサイトを収集することから着手し、学術機関や団体のウェブサイトへと収集の対象を拡大していきたいと考えています。一方で、一般のウェブサイトは今のところ収集することを考えていません。信頼性の低い情報、違法な情報が含まれている可能性があり、そのような情報まで収集することには反対する意見が強いためです。LCではどのような状況でしょうか。

**マーカム** 同じような議論があります。私たちにはウェブサイトを収集する法的な権限は



Deanna Marcum

米国議会図書館サービス担当副館長 (Associate Librarian for Library Services) 博士 (アメリカ研究・メリーランド大学) イリノイ大学で修士号 (英語学) 取得。ケンタッキー大学で修士号 (図書館情報学) 取得。1981年図書館振興財団副会長。1989年アメリカカトリック大学図書館情報学大学院部長。1993年議会図書館公共サービス及び蔵書管理部長。1995年図書館振興財団理事長、保存・アクセス委員会委員長を兼務。1997年図書館情報振興財団理事長。2003年から現職。来日経験が多数ある。著書に“Development of Digital Libraries: An American Perspective” (『電子図書館の発展: アメリカの視点』)、“Online Acquisitions for Libraries” (『図書館にとってのオンライン収集』) など多数。

マーカム  
図書館は100年後も存続しているでしょう。

マーカム  
今では、資料の収集や目録等の仕事の代わりに法的な準備作業に関わる  
仕事が多くなりました。

ありませんので、ウェブサイト上の情報を一定の期間ごとに収集することができるよう、さまざまな組織から合意を取り付けることを目指して交渉を続けています。インターネット・アーカイブのブルースター・ケール氏には、ウェブ情報を収集するロボットクローラーを使用させてもらえるように依頼しているところです。また、収集すべき情報のリストづくりを進めています。例えば、東南アジアで発生した津波のように大規模な災害が発生した場合には、それに関するウェブ情報を全世界から集めます。大統領選挙の際に立ち上げられる選挙運動のためのウェブサイト、すべての候補者にわたって集めれば、大統領選挙の記録を保存することにつながります。州政府や地方自治体には、地域にとって最も重要なものは何かを決めてもらい、それを私たちが集めて保存するというわけです。

**長尾** ウェブサイトの収集には何かよいシステムがありますか。

**マーカム** そのようなものがあればよいと思いますが、今のところ情報の収集と保存まで、それを提供する法的な権限がないこともあって、情報を収集して提供するための本当に強固な技術インフラは持っていないのです。

**長尾** ある限られた数のウェブサイトを集めつつ、当面は提供はしない、ということですか。

**マーカム** そうです。現在、連邦議会議員に、最も関心のあるトピックは何か、ウェブ上でなければ入手できない最新の情報であって必要なものは何か、について質問しているところで、地球温暖化のほか、環境問題、テロリズム、経済に関する情報などが挙げられました。また、学識経験者の協力を得て、もっ

とも信頼性の高い情報源となるウェブサイト特定して、そのサイトを収集するための許諾を得られるように努力しているところです。今では、資料の収集、目録作業、レファレンスといった仕事の代わりに、法的な準備作業に関わる仕事が多くなりました。

**長尾** ドイツや韓国では、本をデジタル化するだけでなくウェブ情報を収集する権限が国立図書館に与えられているようです。

**マーカム** オランダでは法律ができて実際にウェブ情報を収集しています。英国では法律はできたのですが、出版社が抵抗しているために実施できていないようです。ドイツでも同じ状況です。多くの国では同じ課題を抱えているようです。

**長尾** インターネット上の動きとして、いわゆるソーシャルネットワーキング、集合知を活かそうというものがあります。その典型的な例がWikipediaです。集合知は、図書館資料をより有効に利用することに役立つかもしれませんが、どのようにお考えでしょうか。

**マーカム** LCでは、ソーシャルネットワーキングの質に大きなばらつきがあることへの懸念から懐疑的な見方が多いのですが、ちょうど実験を始めたところです。目録を採っておらず、あまり情報もない写真2,000枚のコレクションを、今年の5月にFlickrに掲載したところ、先週までに800万件ものタグが付けられました。

**長尾** 本当ですか。

**マーカム** 突然、山のような情報を手に入れたので、これから検証しなければなりません。これだけ多くの人々が写真、写真家、撮影された場所や人について何かしら知っているというのは驚くべきことです。これから、

より多くの資料を掲載するかどうかを決めることになりますが、資料の真正性をいかにして確保するか、掲載よりも前に信頼すべき情報を付け加えておくべきかどうかを考えなければなりません。個人的には、「これはLCが提供したものです」と出所を明示しつつ、ソーシャルネットワーキングの特長を利用するのがよいと考えています。

**長尾** 我々は多くの人々の知識を活用しなければなりませんね。

対談を終えて  
 対談では、ここに記載した内容のほかに、収集書誌関係やその他の図書館業務のあり方について広く議論をし、双方にとって有益であった。米国議会図書館も当館がやろうとしていることと同様のことを考えていることがわかったが、すでにいろいろなことを実験的にやっており、我々も頑張る必要があると感じた。  
 (長尾)

**用語解説**

**1. 米国議会図書館**

(Library of Congress 略称LC)

アメリカ合衆国議会の図書館であるとともにアメリカの国立図書館。1800年創設。世界で最大級の図書館で、2006年度現在、職員数は3,783人、蔵書数は2,053万冊(図書のみ)、総資料点数は1億3,451万点、予算6億362万ドル。

1994年に電子図書館構想を公表、1995年にはインターネットを通じて目録情報へのアクセスが可能になるなど、電子図書館事業にも力を入れている。

**2. 著作権登録**

著作権登録を行う著作権局(Copyright Office)がLC内に置かれている。

米国では、1989年まで、著作者が著作権を取得するためには登録が必要とされ、著作権登録のためには納本を行わなければならない、結果的に蔵書の拡充に効果をあげていた。

**3. Google**

インターネットサービス検索エンジンの開発と提供、同名の検索サイトの運営を行う米国の企業。2005年に米国で提供を開始したグーグル・ブック検索は、スキャナーで読み込んだ書籍をテキスト検索できるというもの。全文を閲覧できるのは、著作権保護期間が切れた書籍。Googleと提携・協力し蔵書の一部を提供している図書館もある。

**4. フェアユース fair use**

公正使用と訳される。アメリカの判例法上の理論では、一定の条件の下では著作者の許諾なく著作物を使用できる。著作権法上は、批評、論評、報道、教育、研究または調査の目的による公正使用は著作権侵害にはあたらない。公正使用にあたるか否かは、使用の目的及び性格、著作物の性質、著作物全体における使用部分の量及び実質性、著作物の潜在的な市場及び価値に与える影響を考慮して決定される。

**5. パブリック・ドメイン public domain**

アメリカにおいて元来は「公有地」を意味した言葉で、知的所有権(著作権、特許権など)による保護期間が過ぎた創作物(著作物、発明など)はパブリック・ドメインに属し、一般公衆は自由に利用できることを指す。また、そのような創作物をいう。

**6. インターネット・アーカイブ Internet Archive**

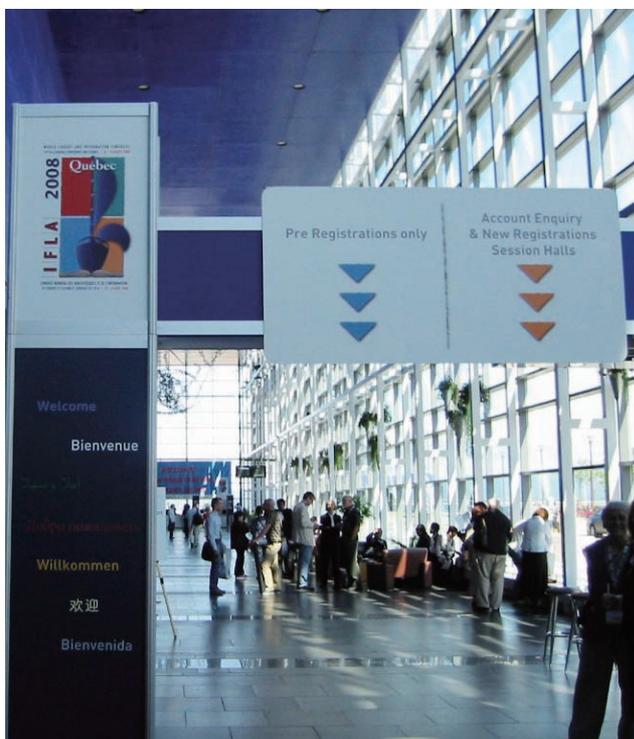
1996年にアメリカのブルースター・ケール氏(Mr. Brewster Kahle 1960-)によって設立された団体で、世界中のウェブページのスナップショット(特定の時点におけるウェブページのコピー)、テキスト、音声、動画、ソフトウェアなどを収集、保存、提供している。<http://www.archive.org>

**7. Flickr**

写真を共有するコミュニティサイト。ユーザーは写真を閲覧するだけでなく、自由にタグ(キーワード)をつけたり分類したりできる。

(この対談は、国立国会図書館で2008年7月8日に英語で行われました。)

# 世界図書館情報会議－第74回国際図書館連盟（IFLA）大会 国境なき図書館－国際理解への航海



左上 ポスターセッション  
 右上 開会式であいさつをする IFLA 会長のクラウディア・ルクス氏  
 左下 メイン会場入り口  
 右中 カナダ国立図書館公文書館の展示ブース  
 右下 メイン会場となったケベックシティ・コンベンションセンター

2008年の「世界図書館情報会議—第74回国際図書館連盟(IFLA)大会」が8月10日～14日、カナダ・ケベックシティで開催されました。参加者は118か国から約3,000名にのぼり、日本からは長尾館長を団長とする当館代表団7名を含め、50名以上が参加しました。

## IFLAとは

IFLAは図書館および情報サービスに関する世界最大の組織です。1927年に創立され、現在150か国に会員1,700機関を擁しています。テーマ別に設けられた46の分科会や、最優先課題である六つの分野(資料保存、第三世界における図書館振興、著作権等法律問題、情報へのアクセスの自由と表現の自由、ユニマーク、書誌標準に関するIFLA-CDNL同盟)のコア活動などを通じて、世界の図書館界の様々な課題に取り組んでいます。

当館は1966年IFLAの準会員に、1971年に会員になって以来、その活動に協力してきました。またIFLA資料保存コア活動(PAC)においては、アジア地域センターとして保存協力活動を行っています。

## 第74回IFLA大会

今年は「国境なき図書館—国際理解への航海」をテーマとして様々なプログラムが行われました。

10日の開会式ではカナダ総督やIFLA会長によるスピーチが行われ、先住民の歌や踊りなどが披露されました。

大会の中心は分科会等の会合です。誰でも参加できるオープンセッション、会場を移して行うオフサイトミーティング、分科会の運営について決定する常任委員会など、200を超える会合で論文発表やディスカッションが行われました。同時に開催された展示会には各国の図書館団体や関連企業等101機関が出展し、会場では137のポスターセッションも行われました。また13日には、隣接する会場で国立図書館長会議(CDNL)が開催されています。大会後半には16の図書館見学ツアーも行われました。

最終日14日の午後にIFLAの最高議決機関である評議会が行われ、オランダの法律に準拠するための規約条文の全面改定等が承認されました。なお、今大会で事務局長が南アフリカのピーター・ロー氏からオーストラリアのジェニファー・ニコルソン氏に交代しました。

14日の閉会式では、功労者、ニューズレターやポスターセッションの優秀者等が表彰されました。また2011年の開催地がプエルトリコのサンファンに決定したとの発表がありました。2009年はイタリアのミラノ、2010年はオーストラリアのブリスベンでの開催が決定しています。

なお、大会前後には、様々なテーマによる14のサテライトミーティングがカナダ国内各都市や米国で行われました。

(国立国会図書館IFLAケベック大会派遣団)

→ 12～18ページで当館職員が参加した会合等を内容を中心に紹介します。

# 国立図書館における評価と評価指標の活用 — 国立図書館分科会

橋詰 秋子

## オープンセッション (8月14日)

今年の国立図書館分科会のオープンセッションは、テーマを「国立図書館における品質保証：文化遺産と研究を支える業績測定と品質評価」とし、統計・評価分科会と合同で本大会最終日に行われました。このセッションでは、まず、国際標準化機構／情報とドキュメンテーション技術委員会 (ISO/TC46) 統計・評価分科会 (SC8) のポール議長 (前ミュンスター大学・地域図書館長) が新しく出版される「国立図書館のためのパフォーマンス指標 (ISO/TR28118)」を紹介し、続いて、大規模なエンドユーザー調査で著名なテクノピア教授 (テネシー大学) が電子ジャーナルの利用に関する調査について発表しました。その後事例紹介として、ノルウェイ、



日本、フィンランド、フランス、オーストラリアから各国の国立図書館における評価や評価指標の報告がありました。日本からは筆者が、国立

国会図書館で導入している評価制度 (活動評価) と指標の活用について発表しました (上写真)。

セッションでは、特に、「国立図書館のためのパフォーマンス指標 (ISO/TR28118)」に注目が集まりました。ISO/TR28118 は、ほかの館種とは異なる任務をも併せもった国立図書館の活動を評価するための指標を定めたテクニカルレポート



で、2006年からの制定作業を経て、2008年秋に出版される予定です (2008年8月現在)。制定作業のため

に設置されたワーキンググループには当館も参加し、原案の作成に携わりました。今回制定されるのは規格ではなくガイドラインに性格に近いテクニカルレポートですが、セッション中は、欧米以外にもシンガポールやナイジェリアなど幅広い国の国立図書館員から質問が相次ぎ (上写真)、関心の高さがうかがえました。

現在、公共図書館などと同じように国立図書館においても数値指標による評価が一般的になっています。質疑応答の中で他国の参加者が、納本率の算出に必要な国内出版物の全数を正確にカウントすることが難しいことを指摘しました。これは当館も困難さを感じている部分です。こうした課題は国が違っても共通するところが多いと感じました。また、セッションを通して、オーストラリア国立図書館が財務指標により財務実績評価を行っていることなど、当館にとって参考となる事例も知ることができました。今回のセッションを契機として、今後より一層、国立図書館の評価の分野で、国際的な協力・情報交換が進むことを期待したいと思います。

(はしづめ あきこ 総務部企画課)

# 民主主義のパートナー — 議会への図書館・調査サービス分科会

廣瀬 淳子

## プレコンファレンス (8月6日～8日)

オタワのカナダ議会議事堂内において、議会図書館プレコンファレンスが開催されました。24回目となる今年のテーマは「議会図書館 民主主義のパートナー」で、参加者は38の国と機関から約120名、イラクを含め途上国からも多数の参加者がありました。各報告の中で特に印象的だったのは、会議を主催したカナダ議会図書館における議会予算分析部門の設置の事例です。

カナダ議会図書館は、カナダ議会の唯一の立法補佐機関です。2006年に創設された議会予算分析部門 (Parliamentary Budget Officer: PBO) は、アメリカの議会予算局 (CBO) をモデルにした組織で、その目的は、国の財政状況やその見通し、経済状況、財政支出等について両院に独立の分析を提供することです。予算、決算などの委員会の審査や行政監視の補佐も担当しています。議院内閣制の国においても、議会に独自の予算や経済財政の分析が可能な部門を設置することの重要性と意義が強調されていました。

## オープンセッション (8月12日)

今大会における議会への図書館調査サービス分科会では、「議会におけるコミュニケーションへの挑戦—言語問題」のテーマで、カナダ・ヌナブト議会図書館、ウガンダ議会図書館、オーストラリア議会図書館から報告があり、参加者は150

名程度でした。いずれも多言語や多民族の議会に対して、情報技術を駆使していかに質の高いサービスを提供するかという点を中心に報告されました。新人議員の増加や、多様な背景をもつ議員の要望にいかに迅速に答えていくかという点については、日本にも共通の課題と思われました。

ケベック州議会、同図書館見学では、連邦制のもとで、カナダの州議会図書館の活動が非常に充実していることが実感できました。

一連の会議を通じて議論された各国の議会図書館に共通する課題としては、議員の要望が多様化、高度化する状況で、いかにして議員のニーズを的確に把握して、その満足度を高めるのか、調査や分析の高度化や質の向上、調査依頼への迅速な対応、先端技術の活用による情報提供等が挙げられます。



カナダ議会議事堂

(ひろせ じゅんこ 調査及び立法考査局海外立法情報調査室主任調査員)

## 21世紀の保存課題

### －資料保存コア活動、IFLA 資料保存分科会関連会議

中村 規子

#### サテライトミーティング オタワ (8月6日)

国立図書館の保存への取組み、保存研究、リスクアセスメント、保存と利用など資料保存全般についての報告が行われました。各国ともデジタル情報の保存を主要課題として取り組むとともに、伝統的な媒体を含めた多様な媒体の保存を行っていること、保存科学を重視し、保存科学に基づく対策をとっていることが改めて認識されました。また、カナダ保存研究所<sup>1</sup>、カナダ国立図書館・文書館保存センター、プリザベーション・テクノロジーズ社（ブックキーパー法による大量脱酸施設を有する）を見学し、カナダにおける広範囲で手厚い保存対策を実地に知ることができました。

#### 合同オープンセッション (8月11日)

資料保存分科会、PAC<sup>2</sup>、情報技術分科会、ICABS<sup>3</sup>、法律図書館分科会の合同セッションでは、デジタル情報の保存が取り上げられました。パッケージ系電子出版物については英国図書館など4機関からの報告がありました。対応するソフトやハード、データ・フォーマットなどがわからなくなってしまうことが保存を困難にしていることは共通の問題であり、そのための対応策として、ニューヨーク大学図書館では電子情報の年代別特徴を記した年表を作成していることなどが報告されました。また、英国図書館が実施したリスクアセスメントやオーストラリア国立図書館の保

存システムなどが紹介されました。ポーンデジタルの保存については、ドイツ国立図書館など6機関から、コンセプト、システム、メタデータ、システムおよび組織上の協力体制等について紹介され、また膨大かつ多様な電子情報を提供するためには国内外の様々な機関の協力の必要性が強調されました。このセッションは、まさしく実務に役立つ情報共有の場でした。

#### PAC と資料保存分科会の合同セッション<sup>4</sup> (8月12日)

PACの各地域センター長から研修プログラムに関する報告が行われました。当館が行っているインターネットを介した遠隔研修については、参加者から関心が寄せられました。

#### PAC センター長会議 (8月14日)

今回はPAC諮問委員会との合同会議でした。国際センター長クリスチアーネ・バリラ氏から、地域活動の活性化をめぐる報告があり、また、各PAC地域センター長から半年間の活動報告が行われました。中国センター長陳力氏からは入手不可能な少数民族関係資料を所蔵する図書館が四川大地震により全壊したことなども報告され、参加者から深い関心が寄せられました。

上記の10日間にわたる会合は充実したものであり、参加者たちと直接、意思疎通を図ることが

できたことは、今後、仕事を進めていく上で大変ありがたい機会でした。

(なかむら のりこ 収集書誌部司書監)

- <sup>1</sup> カナダ保存研究所：1972年設立、カナダ政府内部の機関（Special Operating Agency of the Department of Canadian Heritage）。
- <sup>2</sup> IFLA 資料保存コア活動（PAC）：世界各地の国立図書館等に置かれた14のセンター（国際センターおよび13の地域センター）が核となって資料保存のための世界的な協力に取り組む。
- <sup>3</sup> ICABS：国際図書館連盟（IFLA）、国立図書館長会議（CDNL）と国立図書館による、書誌コントロールの国際的な推進を目的

とする。IFLAのコアプログラムであった「国際書誌コントロールと国際MARC（UBCIM）」を引き継ぎ形で2003年にコア活動になったが、2009年に名称と活動内容を変更することが予定されている。名称は、「デジタル戦略のためのIFLA/CDNL同盟（ICADS：IFLA-CDNL Alliance for Digital Strategy）」に改め、デジタル化、電子情報保存、ウェブアーカイビングなど電子情報全般を扱うことが意図されている。

- <sup>4</sup> PACと資料保存分科会等の合同セッションについては、下記をご参照下さい（<http://www.ifla.org/IV/ifla74/index.htm>）。

### オタワの夕べ

サテライト・ミーティングの、朝8時半からのセッションが終わり、ホテルに向かう途中、7時近くになっても外はまだ明るく、学校帰りのようなどかな気分になっていると、「夕食をご一緒しましょう。7時にホテルの喫茶で待ち合わせね。」とお誘いを受けました。よしよし、夜の部の活動開始と、急いで支度し、ホテルのロビーには7時1分前に着きました。誰もいない、喫茶をのぞいても、それらしき人はいません。7時をゆうにすぎても誰も来ません。私だけ置いていかれたのかしら、としょんぼりしていると、外は雨になり天井からぼつんと雨漏りがしました。ほかの参加者が通りかかったのであいさつをして気を紛らわし、7時20分を過ぎた頃、待ち合わせた人たちが一人、二人とだんだん集まってきました。「7時に待ち合わせね。」とお誘いくださった方は40分すぎにゆったりとにこやかな表情で現れました。ほっとし、時間の観念は国により違うことを、ようやく思い出しました。（中村）



ケベック市庁舎前



中には日本語の表記も！

### ケベック市

2008年に市制400年を迎えたケベックシティでは、週末にパレードが行われたり街角に記念の看板が飾られたりして、祝祭ムードがあふれていました（写真上）。

IFLA大会でも、開会式で「ヌーベルフランス」と呼ばれた時代以来のケベックの歴史についてのスピーチがあったり、「文化の夕べ」で歴史をコミカルに演出した対話劇が演じられたりして、記念すべきこの年を参加者に印象付けました。

街に出ると、フランス文化圏としての誇りを随所で感じました。パン屋や庶民的な食堂のメニューはフランス語表記のみで、フランス語の心得がない私は往生しましたが、聞けば英語で説明してもらえ、おいしい食事を楽しむことができました。（水戸部）

# 書誌情報、電子図書館の基準づくり

## — 書誌分科会・目録分科会

中井 万知子

IFLA は国際的な書誌情報の標準化に大きな役割を果たしています。大会では、情報環境の変化の中で進められている新しい基準やガイドラインの検討に関するセッションに参加しました。

### FRBR と新目録規則

#### RDA に関するサテライトミーティング

(8月8日)

1998年にIFLAが公表した「書誌レコードの機能要件 (FRBR)」に基づいて、新しい目録規則の制定が進められています。一つは2003年から国際目録規則に関するIFLA専門家会議で検討され、2008年6月に最終草案が公表された「国際目録原則覚書」、もう一つは「英米目録規則第2版」に替わる目録規則として制定が進められているRDA (Resource Description and Access = 資源の記述およびアクセス) です。大会に先立って、目録分科会が主催するRDAに関するサテライトミーティングが開催され、2008年秋に公表予定の最終草案<sup>1</sup>に向けての検討状況が報告されました。

### 電子時代の全国書誌のためのガイドライン

#### 書誌分科会オープンセッション (8月14日)

「全国書誌」とは、ある国で刊行された出版物をすべて記録した書誌のことです。IFLAが1979年に出版した全国書誌のガイドラインは、多くの国で全国書誌作成の指針となりました。し

かし、書誌情報もウェブで提供される時代へ、出版物も電子出版物へと変化する中で、書誌分科会のワーキンググループが新ガイドラインの検討を進めてきました。2008年6月に「電子時代の全国書誌のためのガイドライン」の草案を公表し、世界的な意見募集を行いました。書誌分科会での結果を議論し、ワーキンググループでさらに意見を集め、2009年の完成を目指すことになりました。

### 電子図書館に関する活動

#### ワールドデジタルライブラリー (WDL) プロジェクトの会合 (8月10日)

大会に合わせて、ユネスコとLCが中心となって計画中の「ワールドデジタルライブラリー (WDL)」プロジェクトの会合も開かれました。各国が共通の仕様で提供した電子コンテンツを集め、電子図書館を構築することを目指すWDLには、日本も加入を要請されています<sup>2</sup>。会合では、IFLAのルクス会長が設置したワーキンググループが、電子図書館に関するガイドラインを策定中であるなど、電子図書館に関するIFLAとユネスコのさまざまな活動を知ることができました。

(なかい まちこ 収集書誌部司書監)

<sup>1</sup> RDA 草案は11月17日に公表された。

<http://www.collectionscanada.gc.ca/jsc/rdafulldraft.html>

<sup>2</sup> その後、WDL事務局と国立国会図書館は、合意書を締結した。

\* 書誌関係のセッションについては、「NDL 書誌情報ニューズレター」2008年3号 ([http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/bib\\_newsletter/index.html#03](http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/bib_newsletter/index.html#03)) もご覧ください。

# ヤングアダルト（YA）サービスの展開 ー 児童・ヤングアダルト図書館分科会

水戸部 由美

## サテライトミーティング（8月5日、6日）

ケベック公共図書館協会、IFLA 公共図書館分科会、児童・ヤングアダルト図書館分科会、経営・マーケティング分科会の共催により開催されました。テーマは「青少年と航海する：テクノロジーの時代の中で公共図書館はどのように若い顧客を惹きつけ、また引き止めることができるのか」、参加者は157名（日本からは2名）でした。心理学者、作家、図書館関係者らによる発表は20にのぼり、ゲームやソーシャルネットワーキングサービスの活用、ティーン向け読書クラブ、貧困地域でのサービス等の具体例が紹介されました。

## オフサイトミーティング（8月13日）

オフサイトミーティングとして2年前に開館した地元のシャープルク公共図書館（写真）を見学し、図書館が提供する数多くの児童向けプログラムについて説明を受けました。また、昨年完成したIFLA「乳幼児への図書館サービスガイドライン」の説明が行われました。

## オープンセッション（8月14日）

カナダのティーン読書クラブ、ベナン共和国の図書館事情、キューバの公共図書館における環境教育、スウェーデンにおける児童・YA参加型図書館改善プロジェクトに関する報告が行われました。



## YA サービスの展開に向けて

先般「YA への図書館サービスガイドライン」が改訂されるなど、現在、世界的に YA サービスが注目されています。世界の様々な事例、特にティーン向け読書クラブの事例は興味深いものでした。これは、カナダのティーンの95%がインターネットにアクセス可能という条件を生かし、ブリティッシュコロンビア州の教育省、図書館協会、公共図書館が協力してネット上で全国的なティーン向け読書クラブを展開して成功した事例です。参加者はクラブのサイトで登録を行い、書評を投稿したり、本を勧めあったり、本について討議したりできます。図書館員の推薦図書も掲載されますが、ほとんどのティーンは自分で見つけた本について語ることを好むそうです。安全のため、本名を使用することは禁止され、一つのフォーラムにつき、少なくとも一名の図書館員がモデレータとして参加します。クラブを立ち上げた2005年の夏に1,000人が登録することを目標

としていたそうですが、2倍以上の参加者が登録し、今ではブリティッシュコロンビア州以外にも参加者が集まっているそうです。このような事例を参考に国際子ども図書館でも YA サービスの展開を検討していく必要があります。

なお、「ヤングアダルト」の定義は、サテライ

#### ザ・ハリウッド・ライブラリアン

8月11日夜、IFLA会場で映画会が開催されました。上映されたのは、図書館コンサルタントのシデルさんが自主製作した映画「ザ・ハリウッド・ライブラリアン」。映画に出てくる“お堅い図書館員”というイメージに対して、実物の図書館員ってどんな人たち？というのがテーマです。いろいろな映画のシーンと、実際の図書館員へのインタビューで構成した作品でしたが、後半では財政難で閉館の危機に直面した米国サリナス市の図書館員を追い、メッセージ性が強まりました。また、トリュフォーの「華氏451度」と爆撃で破壊されたイラクの図書館の映像が重なるシーンもあって、ハリウッド並みの楽しい映画を期待していた観客は、どきりとしました。(中井)



プチ・シャンブラン通り。城壁に囲まれたケベックシティ旧市街にある。

トミーティングでは13～17歳とされていますが、国によって社会的・文化的状況が異なるため、分科会のガイドラインでは13～25歳の間で各国が決める、とされています。

(みとベ ゆみ 国際子ども図書館企画協力課)

Bibliothèque Saint-Jean-Baptiste  
バプテスト教会の建物を利用した図書館。(ケベックシティ)



#### 「赤毛のアン」と記念撮影

カナダ国立図書館公文書館では、『赤毛のアン』出版100周年記念展示会を開催中でした。会場では、サマースチューデント(夏期に図書館でフルタイム勤務する学生)の女性が、アンさながらの扮装(そばかすも再現!)で展示の説明を行っていました。日本で「アン」の人気があることは有名で、職員の方が記念撮影をしてくださいました。

展示会では、作者モンゴメリの手書き原稿、『赤毛のアン』の初版本、物語着想の元になった雑誌(女性誌The Delineator等)、各国語の翻訳(日本の漫画やアラビア語の図書もありました)、映画やテレビドラマの映像、ミュージカルのポスター等の多様な資料によって『赤毛のアン』が紹介されています。(会期は2009年3月1日まで。)(水戸部)



## 第35回国立図書館長会議（CDNL）

# 電子情報時代のグローバルな連携

ローラー ミカ

8月13日、ケベックシティで開催されたCDNLには、50数か国の国立図書館長（代理を含む）が出席しました。

今年の会議について、カーナビ議長・ニュージーランド国立図書館長から「今回は従来と会議の持ち方を変える。昨年ダーバンで同意したとおり、国立図書館長が集まるまれな機会を生かして、戦略課題について議論したい」との説明がありました。午前中に、役員選出、規約改正等ののち、戦略課題にかかる議論の基礎となるプレゼンテーションをいくつか行い、午後は小グループにわかれて議論し、その結果を全体会議に報告する、ということになりました。

午前中のプレゼンテーションでは、ブリンドリー英国図書館長が「グローバルな電子図書館のためのCDNLのビジョン」というタイトルで、電子情報環境下での連携協力の課題と展望について、議論のための素案を提示しました。各国からコメントが出され、当館長尾館長からは電子ジャーナルについて、出版社等との関係を含め連携に関わる課題であることを指摘しました。また、ヴァラプラサッド・シンガポール国立図書館委員会事務局長より「グローバルな国立図書館—よりよき未来のための連携」と題して、世界の国立図書館のデジタル・コレクションをひとつのインターフェイスで検索することを目指すNational Libraries Global 実験事業が紹介されました。

午後の小グループのディスカッションでは、長尾館長が参加したグループは「CDNLのミッション・ステートメント案」をまとめ、全体会議に報告しました。「CDNLの目的は世界の国立図書館に保存されているあらゆる形態の文化遺産への長期アクセスを促進、提唱することである。CDNLは文化的・言語的多様性を尊重する。CDNLは最良事例の共有、相互援助、職能ネットワーク、相互理解を促進する。CDNLは国立図書館の協働とすべてのコレクションの統合の推進につとめる。」というものです。その他のグループでも「グローバル・デジタル・ライブラリーとしての国立図書館」「新たなパートナーシップを求めて」「持続可能性のリーダーシップ」についてそれぞれ議論し、その要点が報告されていました。

カーナビ議長からは、特にブリンドリー館長の「ビジョン」と「ミッション・ステートメント案」が今後の戦略ビジョンの策定のために非常に有用であると考えたとのコメントがありました。次回会合でのビジョン策定へ向けて、議長を中心に調整がはかられることになっています。

なお、次期役員には、議長に現議長のカーナビ氏が、第一副議長にはあらたにブリンドリー英国図書館長が選出されました。

（ローラー ミカ 総務部支部図書館協力課長）

## 数字で見る国立国会図書館

－『国立国会図書館年報 平成19年度』統計から

『国立国会図書館年報 平成19年度』の主に統計の数字をもとに、国立国会図書館の業務、サービス、組織に関する数字を抜すいし、相互の関連が大まかにわかるように図として表しました。当館を知るうえで重要な数字、意外な数字、当館特有の数字を紹介します。

※数字は平成20年3月31日現在

- 資料の収集・整理・保存に関すること
- サービスに関すること
- インターネットで利用できるサービスに関すること
- 人事・財政・施設に関すること

**資料収集にかかった費用**  
約26億3千万円  
うち、納入出版物代償金  
約3億9千万円

**館全体の予算・決算**  
予算  
約228億7300万円  
決算  
約223億500万円

資料収集にかかる費用のほか、人件費、運営費、増え続ける資料を納める書庫の施工費、土地購入に支出。

**職員数**  
904人

男性 452人  
女性 452人

うち、関西館に126人、国際子ども図書館に36人配置している。専門調査員・管理職のうち女性の割合 28%

### 受入点数

126万6018点

図書	22万5345点
雑誌・新聞	64万6809点
非図書	25万3864点
マイクロ資料	15万1365点
映像資料	1万8228点
録音資料	1万6745点
機械可読資料 (CD、DVD等)	9898点
地図資料	1万3031点
博士論文	1万7001点
文書類	1万5091点
点字・大活字資料	939点
など	

図書や雑誌のほか、さまざまな資料を収集。平成14年度から、公的機関やイベントのサイトなどインターネット情報も収集している。

ウェブサイト (WARP)  
2188件

### 書誌データ作成

145万7596件

図書	17万381件
雑誌	4439件
新聞	188件
非図書資料	56万1457件
雑誌記事索引	72万1131件

書誌情報(書名、著者名など)や所在情報などの書誌データ、日本全国書誌を作成するとともにホームページで公開している。

### 所蔵点数

3473万903点

図書	905万2998冊
雑誌・新聞	1247万4489点
非図書	1320万3416点

マイクロ資料	877万1828点
映像資料	23万3483点
録音資料	61万5622点
機械可読資料 (CD、DVD等)	7万5919点
地図資料	50万9205点
博士論文	48万9446人分
文書類	29万1600点
点字・大活字資料	2万8247点
など	

納本、購入、寄贈、交換などさまざまな方法で入手している。

三施設別所蔵数は次のとおり。

東京本館	2363万4000点
関西館	990万1110点
国際子ども図書館	43万380点

ウェブサイト (WARP)  
1万6877件

### 国際交換

受入 図書	5901冊
逐次刊行物	2360種
非図書	1万1102点

送付 図書	2万1836冊
逐次刊行物	1万2735種
非図書	8250点

ユネスコ2条約をもとに、157か国、2地域の944機関と官庁出版物や、その国に関係する資料を交換している。

### 資料のマイクロ化

マイクロフィルム  
1万3726巻  
マイクロフィッシュ  
8万3345点

マイクロフィッシュ等に媒体変換し、原資料の代替として利用することにより、原資料を保存することができる。

NDL-OPAC で検索できる  
書誌データ

900万7269件  
雑誌記事索引データ  
858万2932件

NDL-OPACとは、国立国会図書館  
蔵書検索・申込システムのこと。

ホームページへのアクセス

3318万4200件

1日平均9万667件

ホームページでは、蔵書検索ができる  
NDL-OPAC、各種データベースなど  
が利用できる。



ホームページでもご覧になれます。  
当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp>)  
トップ>「刊行物」>「国立国会図書館年報」

近代デジタルライブラリー

提供タイトル

9万6856件  
(14万2469冊分)

追加タイトル 7412件

当館が所蔵する、明治・大正期に刊  
行された図書の本文デジタル画像。

児童書総合目録

提供タイトル

73万8878件

追加タイトル1万4860件

国内の主要類縁機関の参加を得て、  
所蔵データ、専門情報(あらすじ・解題、  
受賞情報)を提供している。

一般へのサービス

図書館間貸出

3万622冊

東京本館 1万3364点  
関西館 3477点  
国際子ども図書館 1万3781点

図書館への貸出し、小中学生向けの  
学校図書館セット貸出し、展示会に出  
品するための貸出しがある。

国会へのサービス

依頼調査

4万5144件

国会議員等からの依頼に基づき、国  
政課題や内外の諸事情に関する調査、  
法案の分析・評価などを行っている。

一般へのサービス

レファレンス処理

64万4008件

東京本館 58万1745件  
関西館 5万5077件  
国際子ども図書館 7186件

口頭、文書、電話の回答方法がある。

一般へのサービス

遠隔複写申込

29万505件

東京本館 16万4149件  
関西館 12万115件  
国際子ども図書館 6241件

当館ホームページ等から、来館せずに  
申し込む複写サービス。

行政・司法支部図書館  
へのサービス

貸出16万2638点

支部図書館制度に基づき、各府省庁  
および最高裁判所に支部図書館が設  
置されている。この図書館ネットワ  
ークをもとに、図書館サービス、資料  
の交換が行われている。

一般へのサービス

閲覧237万9816点

東京本館 223万5867点  
関西館 10万4736点  
国際子ども図書館  
3万9213点

利用者が来館して申し込む閲覧サービス。

一般へのサービス

来館複写申込

86万3297件

東京本館 78万9102件  
関西館 6万6683件  
国際子ども図書館 7512件

利用者が来館して申し込む複写サービス。

一般へのサービス

閲覧者61万1574人

東京本館 43万2431人  
関西館 6万1336人  
国際子ども図書館  
11万7807人

開館日数は東京本館・関西館は280  
日、国際子ども図書館は286日。

一般へのサービス

見学・参観

6588人

東京本館 1548人  
関西館 2483人  
国際子ども図書館 2557人

見学のお申込み先は本誌表紙裏参照。

閲覧室面積

2万4837㎡

東京本館 1万8983㎡  
国会分館 562㎡  
関西館 4265㎡  
国際子ども図書館 1027㎡

東京本館には、9の専門資料室と6  
の閲覧室がある。

(総務部総務課)

# 開館60周年を記念して —この10年のトピックスと今後—

# 1998-2008



図 1

図 2

図 1 電子展示会「描かれた動物・植物 江戸時代の植物誌」  
図 2 「テーマ別調べ案内」産業情報ガイドの画面

## 第 7 回 進化する展示会と主題情報提供

### はじめに

平成 10 年から平成 20 年までの 10 年間で、我々を取り巻く情報環境は劇的に変化しました。利用者が求める情報へ案内する役割はますますその重要性が増してきています。あるテーマに基づいて資料を展示する展示会、特定のテーマについての文献情報等を集録した主題書誌、記事情報等を採録した索引類等についても、この情報環境の変化に対応して、進化してきています。これまでの文献の情報にとどまらない多彩な情報源を提供するなど、利用者の情報探索をより良くサポートするための、この 10 年間の主題情報提供の動きを紹介いたします。

### 1 展示会・電子展示会

国立国会図書館では、開館から 60 年の歩みの中で、多岐にわたる資料を収集してきました。それらの資料は膨大な数にのぼり、また、大部分が保存のために書庫に納められていますので、手にとりながら自由に見ることができません。そのため、これらの資料をある特定のテーマに基づいて選り出し、ストーリー性を考えて陳列し、広く公開するのが展示会です。

当館では、現物による展示会を開館以来重要な活動として継続して実施し、さらに、この 10 年の間に、ホームページに掲載してインターネットで発信する「電子展示会」を加えました。

## (1) 新しい形の展示、電子展示会の導入

平成10年度に「開館50周年記念貴重書展」の電子版として作成した「デジタル貴重書展」が、当館最初の電子展示会です。絵巻物を横にスクロールしながら見られるようにするなど、画像の効果的な見せ方についても工夫を凝らしました。平成12年度にも、「世界の中のニッポン」を公開しました。ここでも、時代や地域、内容の組み合わせによって画像を検索するための工夫を行うなど、電子展示会としての使いやすさを追求しました。こうした試みは、その後の電子展示会作成の土台となりました。

## (2) さまざまな電子展示会の提供

このように開始した当館の電子展示会ですが、現在では、「日本の記憶」を総合テーマとし、日本の歴史・文化に関するものを中心に10以上を提供しています(表1のe)。

各展示会は、内容にあわせおむね二つの提供方法があります。

一つは、ストーリーを読み進めながら関連する資料を順に見て、内容を理解していただくもので、例えば「史料にみる日本の近代」では、ペリー来航からサンフランシスコ講和条約発効までの100年の歩みを解説しながら、政治家、官僚、軍人の手稿・日記等の原資料を展示しています。政治史の裏話についてのコラムや史料の読み解き方のコーナーなども設けてあり、多角的に楽しめるものになっています。

もう一つは、資料や画像を選んで見ていただくも



電子展示会「写真の中の明治・大正」

表1 展示会・電子展示会一覧(平成10年度～20年度)

開催・公開年度	名称	会場 / 電子展示会 (e)
平成10	特別展示 国立国会図書館開館50周年記念貴重書展	東京本館
	デジタル貴重書展	e
平成12	世界の中のニッポン ⇒平成13年度に改訂版公開	e
	議会開設百十年記念議会政治展示会	憲政記念館
平成14	日本の暦	e
平成15	日本国憲法の誕生 ⇒平成16年度に第2期公開	e
	蔵書印の世界	e
	特別展示 東南アジアの人々と生活	関西館
平成16	近代日本人の肖像 ⇒平成18年度に第2期公開	e
	インキュナブラー-西洋印刷術の黎明-	e
平成17	特別展示 描かれた動物・植物-江戸時代の博物誌-	東京本館・関西館
	描かれた動物・植物-江戸時代の博物誌-	e
平成18	展示会 日本のヨーロッパ発見-1872-73年に岩倉使節団が見聞したヨーロッパの多様性と統一性-	東京本館
	※オーストリア大使館との共催	
	史料にみる日本の近代-開国から講和まで100年の軌跡-	e
	関西館小展示会 人をサポートするロボット-医療・福祉用ロボット	関西館
平成19	写真の中の明治・大正 -国立国会図書館所蔵写真帳から- (東京編) (関西編)	e
平成20	特別展示 国立国会図書館開館60周年記念貴重書展-学ぶ・集う・楽しむ-	東京本館・関西館
	国立国会図書館開館60周年記念貴重書展-学ぶ・集う・楽しむ-	e
	ブラジル移民の100年(仮) 予定	e

※国際子ども図書館の展示会・東京本館の常設展示を除く。

のです。「近代日本人の肖像」は、写真集や伝記類から著名人の肖像写真を採録した展示会、「写真の中の明治・大正」は当時の建築物や名所の写真を集めた展示会です。目指す資料・画像を検索する必要があるため、キーワード検索以外にもカテゴリー分けをしたり、地図上から絞り込みで見つけられるようにしたりするなどの工夫をしています。

### (3) 電子展示会の作成と利用状況

電子展示会の作成にあたっては、資料全文の展示や、当館のほかのコンテンツ(貴重書画像データベースなど)にその資料が掲載してあればリンクによりご紹介もしています。また、ご自身で操作して楽しみながら資料について知るといったコーナーも設けており、こうしたことは、電子展示会ならではの機能といえます。

作成にあたっては、可能な限り、見やすく操作しやすいものとなるよう努めています。また、多様な環境から利用ができるように、視覚に障害がある方向けに音声ブラウザ等にも配慮を行っています。

昨年度、当館ホームページ全体のアクセス3,318万件のうち、電子展示会へのアクセスは1,712万件を数えました。ご覧になった方からは、内容についての感想・情報や、画像をテレビ番組で使いたいというお問い合わせなど、様々な反響がありました。

### (4) 現物による展示会(23ページ表1)。

大規模な展示会としては、議会開設を記念して10年毎に開催してきた展示会として、平成12年度に議会開設110年記念展示会を開催し、当館憲政資料室所蔵資料を中心とする明治から昭和までの議会政治に関する資料を展示しました。

平成17年度には「描かれた動物・植物—江戸時代の博物誌—」というテーマのもと、当館が所蔵する貴重なコレクションである、江戸時代の博物誌関

開館60周年記念貴重書展 展示資料のレプリカを実際に手にとれる資料体験コーナー



係資料を紹介しました。東京本館・関西館の2会場で同内容の展示会を開催し、あわせて電子展示会も作成するという、当館の展示会の新たな形となりました。

また、関西館では、アジア関係や科学技術関係といった特色ある資料の所蔵を活かした展示を行いました。国際子ども図書館の展示については、本誌567(2008年6月)号をご参照ください。

東京本館利用の際、気軽にご覧いただける「常設展示」は、平成2年度から継続し、本年度で155回に達し終了しました。ホームページにはこの展示のパンフレットの掲載も行い、ユニークなテーマ、時機をとらえたテーマによる文献リストとして活用されています。変遷については本誌560(2007年11月)号に記事があります。

### (5) 今後に向けて

本年度は、東京本館(10月)、関西館(11月)で「開館60周年記念貴重書展」として現物による展示会を開催し、それにあわせて同展示会の電子展示版も公開しました。本誌569/570(2008年8/9月)号をご参照ください。

電子展示会では、ブラジル日系移民100年や、日蘭交流の歴史をテーマとして、オランダ王立図書



第153回常設展示(国技・相撲)のページ

# 開館60周年を記念して 1998-2008

—この10年のトピックスと今後—

館と当館がそれぞれ電子展示会を作成する企画等が進行中です。

一方、常設展示は、よりよい形を目指して、平成21年度からホームページでの展示をメインにした形で再出発する予定です。ユニークなテーマ設定といった長所は大切にしながら、ホームページから発信することでより多くの方に活用していただけるよう、工夫を重ねていきます。

電子展示会には、会期を限らず、インターネット環境があればどこからでも見られる利点があり、現物による展示会には、実際に目で見ないとわからない実物の迫力、質感や色合いを実感したり、有識者による講演会、担当職員によるガイドツアーといったイベントに参加する楽しみがあります。電子展示会と現物による展示会、それぞれのメリットを生かし、これまでの経験の蓄積の上に新しい要素を取り入れながら、開催していきたいと考えています。

## 2 進化する主題情報提供

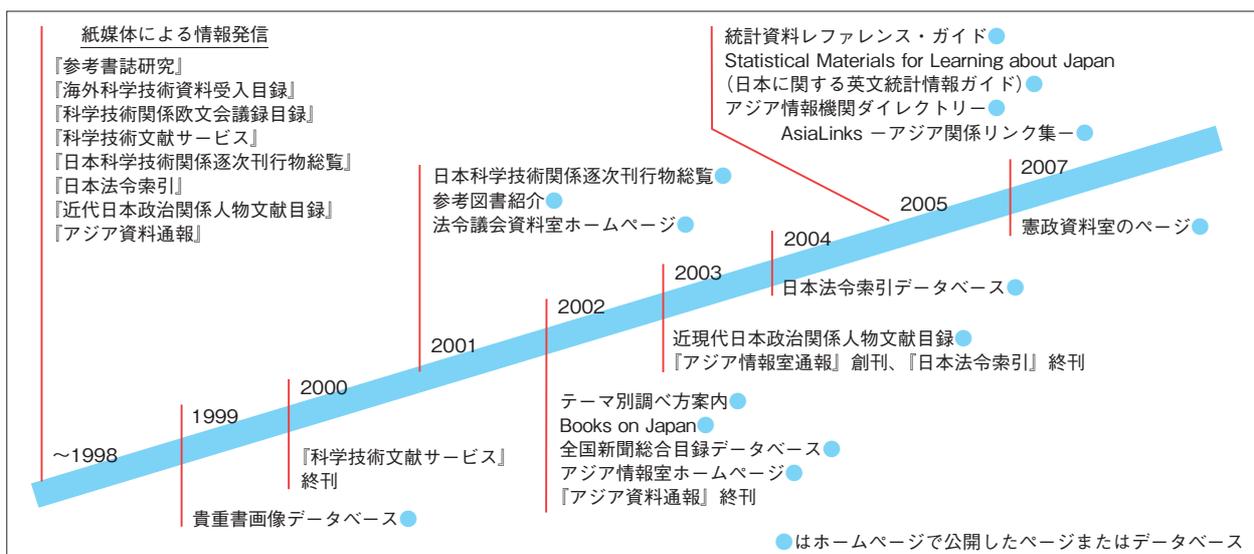
### (1) 広がる情報空間—紙からインターネットへ

当館では、『日本全国書誌』、『雑誌記事索引』などの一般的な書誌や索引のほか、図1にあげた『日本法令索引』、『日本科学技術関係逐次刊行物総覧』、『参考書誌研究』などを長年にわたり刊行してきました。これらの資料は、テーマやキーワードから探せる主題書誌や索引などのレファレンス資料です。書名や論文名のみでは十分に探せない情報を見つけることができるのです。

表2 現在ホームページから利用可能なおもなデータベース一覧

カテゴリ	サービス名
国会サービス 関連情報	国会会議録
	帝国議会会議録
	日本法令索引
資料の検索	アジア言語 OPAC
	憲政資料室の所蔵資料
	全国新聞総合目録データベース
	児童書総合目録
調べ方案内	企業・団体リスト情報
	参考図書紹介
	近現代日本政治関係人物文献目録
	日本科学技術関係逐次刊行物総覧

図1 平成10(1998)～平成20(2008)年の主題情報提供の概要



\* 「法令議会資料室ホームページ」は、その後「議会官庁資料室ホームページ」を経て、2007年度に現行の「日本と世界の議会・法令・官庁資料」に名称変更

紙媒体で刊行されている間は、図書館に行かないと調べられませんでした。データベース化されたことで、今ではインターネットを通じて検索することができるようになりました。

## (2) 調べ方案内の充実－信頼性のある情報提供

インターネット上の情報は爆発的に増えて便利になる一方、その膨大な情報の中から、信頼性のある必要な情報を選び出し、いかに使いこなすかが重要になってきました。

当館では、あるテーマについて調べる際に役立つ情報を「テーマ別調べ方案内」としてインターネットで公開しています。この「テーマ別調べ方案内」は、日々、利用者の方から受ける質問をもとに、どのようなテーマが調べもののニーズとしてあるのかを分析して、調査に役に立つ情報源を精選して紹介するものです。具体的には、当館所蔵資料の解説、インターネット上の有用なサイト、関係機関情報や調査のコツなどです。

例えば、「産業情報ガイド」は60（平成20年11月現在）の産業について、基本的な情報を得るための各種情報源をわかりやすく整理しています。

統計分野に特化した「統計資料リファレンス・ガ

イド」では、日本語で記述された統計検索ツールや統計書を分野別に紹介しています。

また今後は、病気の病態・治療法などに関する情報源を紹介する「病気（疾病）別医療情報ガイド」や、技術に関する情報源の紹介も充実させていく予定です。

「テーマ別調べ方案内」以外にも、アジア情報室では、「AsiaLinks ーアジア関係リンク集ー」でアジア各国のウェブサイト为国・地域別、機関別、テーマ別から探せるリンク集を提供していますし、議会官庁資料室が「日本と世界の議会・法令・官庁資料」で当館所蔵資料とインターネット上の情報を提供し、憲政資料室では「憲政資料室の所蔵資料の検索」でコレクション資料を紹介しています。

## (3) 館内ガイダンスや図書館協力－顔の見える活動の活性化

前述のインターネット環境への対応とともに、利用者や図書館と直接接する活動もさらに充実させていきます。

平成20年9月18日から12月11日の、隔週木曜日に、東京本館の来館利用者を対象として「30分でわかる 調べ方ガイダンス」を行いました（表3）。日頃利用者から資料に関する質問に答えてい

### 主題情報データベースがなかったら・・・

主題情報データベースの一つに「近現代日本政治関係人物文献目録」があります。これは明治から現在までに刊行された当館所蔵の和図書のうち、明治期以降、政治の分野で活躍した日本人について書かれた文献を、人物名から検索することができるものです。

例えば、「福田康夫元首相について書かれている和図書」を探す場合、検索すると約60件の文献が出てきます。それぞれ、何ページにどのような内容が書かれているかがわかります。この目録を使えば、書名や著者名に「福田康夫」という名前のない『二十一世紀を創る政治家』にも記載があることがわかります。

毎週当館が受け入れた和図書の中から、職員が政治に関わる人物の記述のある文献を探し出し、その書名・

論題名・注記事項等を入力するという地道な作業によって、作成しています。

このデータベースは、以前は冊子で提供していました。昭和60（1985）年に『国立国会図書館所蔵 近代日本政治関係人物文献目録』、その続編として平成12（2000）年に『国立国会図書館所蔵 近代日本政治関係人物文献目録 1985-1997』を刊行しました。

平成15年に全て電子化し、平成10年以降の新しいデータを追加して当館ホームページに公開しました。現在では毎週受け入れる和図書から採録した新鮮な情報とあわせ、約20年以上蓄積してきたデータを一括して検索することができるようになっています。

表3 「30分でわかる 調べ方ガイダンス」これまでのテーマ

日時	テーマ	開催場所
9/18(木)	明治・大正時代の新聞記事を調べるには	新聞資料室
10/2(木)	世界および日本の市場・企業動向を調べるには	科学技術・経済情報室
10/16(木)	医療文献を調べるには	科学技術・経済情報室
10/30(木)	どんな新聞があるかを調べるには	新聞資料室
11/13(木)	世界および日本の市場・企業動向を調べるには	科学技術・経済情報室
11/27(木)	医療文献を調べるには	科学技術・経済情報室
12/11(木)	地方の新聞を調べるには	新聞資料室

る職員が、各テーマについて資料やデータベースの紹介をしながら「調べ方のノウハウ」を説明する内容です。今後も随時、開催していく予定です。

また、全国の図書館に対しては、各図書館や県の図書館協会などが実施する「レファレンス業務に係る研修」に、平成20年度は、二つのテーマ（「インターネットで使える国立国会図書館のレファレンス・ツール」と「図書館によるビジネス支援（経済分野および科学技術分野）」）について、当館職員を講師として派遣しています。

これらの利用者や図書館への支援を通じて、それぞれのニーズを的確に把握し、さらなるサービスの向上、よりよいコンテンツの提供を目指していきます。

#### (4) 平成21年度は「ナレッジ提供サービス」元年

当館では「国立国会図書館電子図書館中期計画2004」の中の「情報資源に関する情報の充実」の一環として、「ナレッジ提供サービス」の構築を進めてきました（本誌559（2007年10月）号参照）。

利用者へのサービスに携わる職員の知識と経験に基づいて、当館の所蔵資料やホームページのコンテンツのみならず、館外の情報源も含めた広範な情報の中から信頼性のある確かな情報資源にたどりつける、リサーチ・ナビゲーション・ネット上での情報探索の道標（みちしるべ）となるサービスをめざしています。

具体的には、これまで紹介してきたデータベース、「テーマ別調べ方案内」、各専門室のページを拡充・再編して、所蔵資料やインターネット上の情報を、より探しやすくするための仕組みを提供し、API（Application Program Interface）の公開等も予定しています。

使う人とともに成長するシステムでありたいと考えていますので、どうぞ今後とも皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

（主題情報部）

#### テーマ別調べ方案内

「花粉症について詳しく知りたいのですが…」。利用者の「知りたいこと」は多岐にわたります。「どのように調べればいいのか」は、調べるときのポイントのひとつです。

数年前まで当館では「インフォメーションカード」（写真）を作成して、そうした調べものに役立つ各種のノウハウを蓄積していました。

利用者によく聞かれる質問や主題別の参考図書の情報などを、「カード1枚につき1テーマ」という原則でまとめ、いつでも正確で均質な回答を素早く利用者へ提供できるようにしていました。その数は数百枚のほりです。

現在、このカードはデータベース化され、「テーマ別

調べ方案内」としてホームページで公開しています。情報量が格段に増加し、新規記事の作成と既存の記事の更新を随時行えるようになりました。また、利用者がインターネットで、こうした図書館員のノウハウを参考に、して来館する前に調べたり、近くの図書館や書店で資料を入手したりすることも可能になりました。



# 本屋に ない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

## 西洋語まなび事始め 香川大学図書館一般公開行事 神原文庫資料展

香川大学図書館編  
〒760-8525 高松市幸町 1-1  
2007.10 61頁 A4

(KE29-H72)

『福翁自伝』によれば、大坂の適塾に学んだ福沢諭吉は、塾に1冊しかない大部の蘭和辞書『ズーフ・ハルマ』を、ほかの塾生とともに、夜を徹して黙々とめくりながら学んだという。辞書そのものが普及していなかった時代に異国の言語を学ぶ労苦は想像を絶するが、その一端を、当時の辞書・文法書・読物などの語学書を紹介しつつかま見せてくれる本である。

本書は、平成19年10月28日から11月4日までの1週間にわたり、香川大学図書館にて開催された一般公開の展示会「西洋語まなび事始め」の展示目録である。同図書館では、香川大学初代学長を務めた神原甚造（1884～1954）氏の旧蔵書約1万2,000点、1万6,500冊余を「神原文庫」として所蔵し、平成7年から年1回、秋に展示会を開催し一般に公開している。神原文庫は、江戸期から明治期にかけての多くの洋学資料を所蔵することで知られるが、こうした展示会の企画は、図書館が所蔵する貴重資料の存在をより多くの人に知ってもらうための試みとして、有意義であると思われる。

内容も読み応えが充分にある。本書で扱われる「西洋語」の範囲は、オランダ語に始まり、英語、フランス語、ドイツ語そしてロシア語に及んでいる。それぞれの言語の専門家によって、きわめて充実し

た解説が付されていることが、本書の大きな特色の一つとなっている。例えば江戸時代には、幕府の忌きに触れないように、洋字を用いずにカタカナでオランダ語の単語を表し、キリスト教が禁止さ



れていることから、「神仏」の項目は慎重に省かれたという事実は、この時代ならではの制約について考えさせられる。また、明治5～7年に刊行された図解英語辞典『英国単語図解』では、“hour”の意味を「一時」としながら線香に煙が立つ図が添えられていたというエピソードも興味深い。解説では、こうした話題が随所にはさまれており、日本の近代化に携わったさまざまな人々と西洋語の関わりを巧みに描き出しているといえる。

本書の内容を含む展示会の概要は、香川大学図書館神原文庫のホームページ (<http://www.lib.kagawa-u.ac.jp/www1/kambara/kambara.html>) でも公開されているので、興味を持たれた方はぜひご参照いただきたい。

ながお むねのり  
(長尾 宗典)

## 海外からの Gift — 寄贈と国際交換

今年、チェコの出版社 Archa 90 Publishing House から *Velislavova Bible — Velislai Biblia picta* の複製版（2008 年刊行）が国立国会図書館へ寄贈されました（下写真）。この資料のオリジナルは 1340 年頃に作られた美しい絵解き聖書であり、チェコの歴史や伝説も色濃く反映されたチェコの文化遺産とされる本です。チェコ国立図書館が所蔵しており、同館は全文の電子画像を公開しています。このように国立国会図書館は、海外から思いがけない資料が贈られることがあり、豊かな蔵書の源となっています。



ところで当館は、各国の国立図書館等と国際交換を行っています。国際交換とは官庁出版物や法令議会資料をはじめとして、自国の出版物の中から相互に必要なものを無償で送り合うものです。規模の大小はありますが、昨年度は約 80 か国と交換を行いました。例えば、チェコ国立図書館とは「国の文献」(national literature)



交換先に送付する資料（手前）と仕分け棚。棚は交換する機関ごとに分かれています。

も交換しています。チェコで出版された日本に関する図書や日本人著作のチェコ語訳などが定期的に届きます。代わりに日本で出版されたチェコ関係の図書を送っています。それぞれの国でお互いのどんなところに関心が高いかこれらの出版物からうかがうことができ、とても興味深いものがあります。

寄贈や国際交換は当館の蔵書の構築に大きく貢献しています。海外からの知と文化の贈り物に対し、私たちは感謝の気持ちと協力関係が続くことへの願いを伝えます。

Thank you for your continued cooperation と。

\* 海外刊行資料は納本制度の対象ではなく、「資料収集の指針」に基づいて当館の蔵書として必要なものを選択し、購入のほか国際交換や寄贈によって収集しています。

(外国資料課 exchange)

## 第43回貴重書等指定委員会報告

# 新指定貴重書のご紹介

平成20年7月16日、第43回貴重書等指定委員会を開催し、国立国会図書館貴重書指定基準・国立国会図書館準貴重書等指定基準に基づき、新たな貴重書および準貴重書を指定しました。貴重書に指定した資料は、高野版1点、古刊経1点、古活字版10点、準貴重書に指定した資料は、寛永後半から正保頃に版本の挿絵に筆で彩色を施した「丹緑本」2点です。この結果、当委員会が指定した資料の累計は、貴重書1,246点、準貴重書785点となりました。以下に、新指定資料について紹介します。

### 貴重書

#### 1 梵字悉曇字母并釋義 （ほんじつたんじもならびにしゃくぎ） 〈請求記号 WA6-91〉

空海撰 正平7(1352)刊 高野版 1巻1冊(表見返し1丁、本文14丁、裏見返し1丁) 大きさ25.1×15.8cm 粘葉装 書名は内題による 尾題「悉曇章」 刊記「正平七年壬辰二月廿五日於金剛峯寺 寛覺書/願主法眼重祐」 黄色地代赭色斑点後代表紙 本文料紙：楮 無辺無界 字高20.8cm 半葉7行 毎行17字 註小字双行 両面印刷 版心「字母釋 一(〜八)」 最終丁裏墨書識語「嘉慶二戊辰八月六日於高野本誓院律窓以樂院點本點之校畢/正和五年五月廿八日於大覺寺殿佛母心院以御本二半紙/牒草子/書寫之既訖彼御本者以御筆本卷物被仰宗英/被書寫之云、梵字者宸筆也一字一點不違/本者也雖為二傳之本尤可秘藏者欵比書/世流布之本[ヒ](言篇に比) 謬甚多恐可為證本者乎/金剛佛子融濟/持者憲瑜」 朱筆、墨筆書入あり 見返し裏墨書「悉曇字母表釋」 印記「月明荘」



梵字悉曇字母并釋義

空海(774〜835)が我が国ではじめて著わした梵字の解説書。梵字の起源、陀羅尼の意義、個々の文字の意義を解説する。正平7(1352)年に高野山金剛峯寺で刊行された高野版。重祐の発願で、版下の書は寛覚が書いたと刊記にある。表紙は後代のもの。京都大学総合図書館谷村文庫に永享4(1432)年の識語を持つ同版があるが、指定本はそれより刷りがよく、本文料紙も南北朝頃のものとして推測されることから、1400年前後の印刷ではなかろうか。なお、実見していないが、和歌山県立博物館所蔵の同版とみられるものには、指定本と同内容の巻末識語があることから、今後はこの識語の検討も必要と思われる。

#### 2 妙法蓮華經 （めうほつれんげきょう） 〈請求記号 WA3-34〉

至徳2(1385)刊 8巻8軸 紙高27cm内外 卷子本書名は内題による 巻6墨書題簽「薩達麼素担覽」 巻1、2、3、8は題簽剥落、巻4、5、7は墨書題簽「妙法蓮華經」 表紙：黄褐色地に金銀泥松葉崩し霞模様など 見返し：銀箔散し 本文料紙：楮 無辺無界 字高約21.5cm内外 1紙23、24行 毎行17字 料紙貼り合わせ後に印刷 朱点・黒点あり 書入れあり 巻3末に薄墨書「大同寺」 巻6末に朱書「観音寺全海持之」 巻7本文に濃墨補写「供養於世尊為求無上慧」 巻8末に押印「於但州朝来郡竹田法華妙典/百十部并經箱為六親善利也/（切取り痕跡）施主天野屋敬白」 印記なし



妙法蓮華經

指定本は、巻5、6の巻末に、至徳2(1385)年6月1日に、駿河伊豆両国兼任長谷部直連が、亡両親の菩提を弔うために板木を彫刻させ刊行させたと刊記がある。長谷部直連の詳細は不明だが、<sup>はせべのぶつら</sup>長谷部信連(～1218)の子孫であろうか。巻8巻末には、この経の版木は、<sup>みくみん</sup>但馬国美含郡の寺(寺院名が刷りだされていない)に刻調して納め刊行すると刊記がある。さらに巻8には、この印刷は、<sup>あさこぐん</sup>但馬国朝来郡竹田にて、「天野屋」(経歴不明)なる者が肉親の供養のため千部を摺刷して、経箱も製作したと押印で記されている。これらのことから、この經典は至徳2年に版木が彫刻されたことがわかる。摺刷時期は、但馬国竹田は嘉吉年間(1441～43)に山名氏が築城、以来慶長5(1600)年に廃城となるまで栄えた中世の町であることから、至徳2年以降慶長までの間と考えられる。表紙は退色しているが、金泥、銀泥で霞などが描かれ、製作当初の美しさがしのばれる。調査の範囲ではほかに伝本は見つからない。

### 3 つきみつのさうし 〈請求記号 WA7-267〉

〔元和・寛永頃(1615～44)刊 古活字版 1冊 大きさ27.5×18.7cm 書名は内題による 焦茶色元表紙(補修済み) 本文全31丁(第21丁欠) 本文料紙:楮 無辺無界字高約22.8cm 半葉11行 毎行21字内外 平仮名漢字交り 版心は丁数のみ漢数字 挿絵4図(朱、緑、黄色、の筆彩色あり) 印記なし

室町時代に成立した御伽草子。「月日の草子」として知られる。天竺「まかた国」の長者の息子「ほう王」「さんさう」は、継母により塩水島に流されるが、亡き実母が極楽の大鳥と化し子供を守り育てる。そして父に救出され、二人の息子は成長して日と月となったという話。版本としては最も古いもの。同版は、東京大学国文学研究室本が知られるのみ。挿絵にはすべて、朱、緑、黄色の彩色が施されている。「月日の草子」の古活字版は、大英図書館(アーネスト・サトウ旧蔵)でも所蔵するが、こちらは指定本とは別版で、挿絵はなく、一部文章も異なる。



つきみつのさうし

4 てんだいぼさつかいしよ 天台菩薩戒疏 〈請求記号 WA8-8〉

天台沙門明曠刪補〔寛永～慶安（1624～52）〕刊 古活字版 2巻2冊（上巻44丁、下巻53丁） 大きさ29.3×19.6cm 書名は内題による 四針眼訂法 袋綴 薄茶色改装表紙 本文料紙：楮 上下単辺 界高22.0cm 無界 半葉10行 毎行17字 漢字活字 注双行（小活字） 版心「菩薩戒疏 卷上（下）」 表紙墨書第1冊「黄四／共二巻／東叡山活板／菩薩戒經疏 明曠刪補」 第2冊「黄四／共二巻」 第1冊見返し貼付紙墨書「活字版／菩薩戒經疏 二冊」 同貼付紙朱印記「狩野氏〔図書記〕」「第三二〇號」 全冊補修改装あり 印記「島田」



天台菩薩戒疏

『梵網經』の「菩薩心地戒本」の部分についての注釈書。唐の大暦12（777）年に中国天台宗の僧明曠が著した。日本の天台宗で最も重要な戒律の書の一つで『明曠疏』『明曠刪補』などとも略称される。指定本は上下2巻として印刷されているが、通常は上中下3巻本である。使用されている活字は、江戸初期に天海（1536～1643）が刊行した我が国最初の一切経として知られる天海版一切経に使用されている活字と同じものである。天海版の約26万個の木活字は重要文化財に指定され、現在寛永寺で所蔵する。本書は天海版一切経には収録されていないことから、一切経とは別

に刊行されたもので、やはり江戸初期、おそらく寛永から慶安頃の印刷とみられる。明治の仏教学者島田蕃根（1827～1907）旧蔵、その後、京都帝国大学文科大学初代学長狩野亨吉（1865～1924）が所蔵したようである。同版は成篁堂文庫で所蔵する。

四分律関係古活字版8点（5～12）

以下、5から12は、唐代の道宣（596～667）が著わしたもので、あるいは宋代の元照がんしょう（1048～1116）が道宣の書を注釈したもので、四分律に関する書である。四分律は、我が国に道宣の弟子鑑真（688～763）が来朝したことから、東大寺、唐招提寺など主に南都の仏教において重要な戒律である。指定本に使用されている木活字は現在も東大寺図書館に現存する。将来これら版本と活字との調査が期待される。東大寺図書館には、南宋版の一部、あるいは南宋版を鎌倉時代に覆刻した律関係の経典が残っており、古活字版との関係が考えられる。

5には、巻末に正保3（1646）年に京の書肆林甚右衛門が刊行したとの刊記があり、9にも、慶安5（1652）年に林甚右衛門尉が刊行したとの刊記があることから、ほかの無刊記のものも京都の書肆林氏により刊行されたと推測される。なお、「慶安5年」は、古活字版の刊記としては最後のものといわれている。

5 四分律行事鈔資持記 しぶんりつぎょうじしやうじき (請求記号 WA8-9)

大宋餘杭沙門釋元照撰 正保3(1646)刊 古活字版 16巻16冊 大きき27.7×19.3cm 書名は内題による 書外題「資持記」 刊記「正保三丙戌曆 / 三條通菱屋町婦屋 / 林甚右衛門」 五針眼訂法 袋綴 元表紙(薄茶色地雷文繫ぎ蓮華唐草押型) 改装 本文料紙:楮 無辺無界 半葉12行 毎行22字 字高約24.2cm 漢字活字 小字双行 白口 上下花魚尾 版心「資持(巻)(丁数)」 朱墨書入れあり



四分律行事鈔資持記

6 曇無徳部四分律刪補隨機羯磨 どんむとくぶしぶんりつさんぼずいきこんま (請求記号 WA8-10)

京兆崇義寺沙門釋道宣集撰 [正保~慶安(1644~52)] 刊 古活字版 2冊 大きき27.5×19.1cm 書名は内題による 五針眼訂法 袋綴 元表紙(縹色地雷文繫ぎ蓮華模様) 改装 本文料紙:楮 無辺無界 半葉8行 毎行20字 註小字双行 字高22cm 漢字活字 白口 上下花魚尾 版心「羯磨上(下)(丁数)」 巻頭に自序あり 訓点等朱墨書入れあり 印記「太平」

7 四分律刪補隨機羯磨疏 しぶんりつさんぼずいきこんましょ (請求記号 WA8-11)

大唐沙門釋道宣於終南山豊徳寺撰 [正保~慶安(1644~52)] 刊 古活字版 4巻8冊 大きき27.4×19.2cm 書名は内題による 五針眼訂法 袋綴 元表紙(縹色地雷文繫ぎ蓮華模様) 改装 本文料紙:楮 無辺無界 半葉10行 毎行21字 字高23cm 漢字活字 白口 上下花魚尾 版心「業疏一(~四)上(下)(丁数)」 自序あり 朱墨書入れあり 印記「太平」

8 釋四分律刪補隨機羯磨疏科 しゃくしぶんりつさんぼずいきこんましょか (請求記号 WA8-12)

餘杭郡沙門元照撰 [正保~慶安(1644~52)] 刊 古活字版 2冊 [「三」の部分のみ] 大きき27.6×19.0cm 書名は内題による 五針眼訂法 袋綴 元表紙(縹色地雷文繫ぎ蓮華模様) 改装 本文料紙:楮 無辺無界 半葉12行 毎行15~26字 字高24cm 内外 漢字活字 白口 上下花魚尾 版心「業疏科 上(下)(丁数)」 印記「太平」

9 四分律刪補隨機羯磨疏濟縁記 しぶんりつさんぼずいきこんましょさいえんき (請求記号 WA8-13)

大宋餘杭沙門釋元照述 慶安5(1652)刊 古活字版 8冊 大きき28.0×19.2cm 書名は内題による 巻4下巻末刊記「慶安五壬申歲吉旦 / 三條通菱屋町婦屋 / 林甚右衛門尉板行」 四針眼訂法 袋綴 元表紙(縹色地雷文繫ぎ蓮華模様) 改装 本文料紙:楮 無辺無界 半葉12行 毎行22字 字高24.1cm 漢字活字 註小字双行 白口 上下花魚尾 版心「濟縁一(~四)上(下)(丁数)」 自序あり 朱墨書入れあり 印記「太平」



四分律刪補隨機羯磨疏濟縁記

10 四分律含注戒本疏 しぶんりつがんちゆうかいほんしょ (請求記号 WA8-14)

終南太一山沙門釋道宣撰 [正保~慶安(1644~52)] 刊 古活字版 8巻8冊 大きき27.3×19.0cm 書名は内題による 五針眼訂法 袋綴 元表紙(縹色地雷文繫ぎ蓮華模様) 改装 本文料紙:楮 無辺無界 半葉10行 毎行19字 字高21cm 漢字活字 白口 上下花魚尾 版心「戒疏一(~四)上(下)(丁数)」 自序、自跋あり 朱墨書入れあり 印記「太平」

11 釋四分律含注戒本疏科 しゃくしぶんりつがんちゆうかいほんしょか (請求記号 WA8-15)

大宋餘杭沙門元照撰 [正保~慶安(1644~52)] 刊 古活字版 2巻2冊 大きき27.3×19.1cm 書名は内題による 五針眼訂法 袋綴 元表紙(縹色地雷文繫ぎ蓮華模様) 改装 本文料紙:楮 無辺無界 半葉12行 毎行字数不定(26~31字) 字高24cm 内外 漢字活字 白口 上下花魚尾 版心「戒疏科 上(下)(丁数)」 印記「太平」

12 四分律含注戒本疏行宗記 しぶんりつがんちゆうかいほんしょぎやうしゆうき (請求記号 WA8-16)

大宋餘杭郡沙門元照述 [正保~慶安(1644~52)] 刊 古活字版 8冊 大きき27.3×19.0cm 書名は内題による 五針眼訂法 袋綴 元表紙(縹色地雷文繫ぎ蓮華模様) 改装 本文料紙:楮 無辺無界 半葉12行 毎行22字 字高24cm 漢字活字 白口 上下花魚尾 版心「行宗一(~四)上(下)(丁数)」 自序あり 朱墨書入れあり 印記「太平」

## 準貴重書

### 1 義経記

〈請求記号 WB2-10〉

寛永12(1635)刊 8巻8冊 大きさ27.0×18.7cm  
書名は内題から 巻8末刊記「寛永十二年乙亥正月吉辰」四針眼訂法 袋綴 縹色元表紙(補修済み) 題簽部分的に残る本文料紙: 楮 無辺無界 字高約22.0cm 半葉12行 毎行約25~6字 平仮名漢字交り 版心「義経 一(八)(丁数)」 詞書部分の喉に絵の順番を示す漢数字印刷 挿絵全66図(丹、緑、黄にて彩色) 挿絵に丁付けあり 印記「残花書屋」「戸川氏/蔵書記」「賓南」



義経記

古活字版について寛永12年に刊行された挿絵入『義経記』。挿絵は全部で66図。丹、緑、黄の彩色が施されるいわゆる「丹緑本」。『義経記』の整版絵入り本は、寛永12年の後は正保3(1646)年に刊行されたので、指定本が印刷彩色されたのは寛永12年以降正保3年頃までの間と考えられる。同版が京都大学附属総合図書館にあるが、京都大学本は詞書部分、挿絵部分ともに印刷の摩滅があり、やや彩色も異なる。蔵書印は戸川残花(1855~1924)の息子戸川浜雄が使用した印といわれる。

### 2 つきじま

〈請求記号 WB2-11〉

〔寛永末~正保(1633~47)〕刊 2巻2冊 大きさ24.9×17.6cm 書名は内題による 版心書名「兵庫」 四針眼訂法 袋綴 縹色原表紙 題簽跡あり 本文料紙: 楮 無辺無界 字高約20.5cm 半葉10行 毎行19~21字内外 平仮名漢字交り 挿絵全12図(丹、緑の彩色あり) 印記「慎」

室町期に成立した幸若舞曲。「築島」「兵庫」などとも。福原港工事で、平清盛は人柱を集めている。生田の森で捕らえられた刑部左衛門国春の娘ひょうぶさきえもんくにはる名月女は、自身と夫を身代わりに父の助命を願う。めいげつによ結局、清盛は人柱の代わりに寵童松王と法華經一万部を埋めて工事を完成させるという物語。古活字版について刊行されたもので、挿絵が12図入っている。すべて丹と緑で簡単な彩色が施されている。刷りは鮮明。国内に同版は見つからないが、ニューヨーク・パブリックライブラリー本が同版で、同様の彩色が施されている。



つきじま

(貴重書等指定委員会)

# 使う人がいる 守る人がいる

## 第11回 図書（無線綴じ資料）

**資**料の閲覧や複写などの「利用」と、資料の傷み具合は密接に関係しています。今回は本を開いたときに壊れてしまうことの多い「無線綴じ」資料についてご紹介します。

無線綴じとは、糸などを使わず、接着剤のみで綴じる製本方法のことです。糸で綴じる製本方法に比べて効率的に製本できるうえに、費用も安価であるため、1970年代から急速に普及しました。綴じしろの部分と比較的狭くすることができるので、写真集やマンガをはじめとして、ジャンルを問わず用いられる方法です。1990年代に日本で出版された図書資料の8割が、無線綴じ資料で占められていることが国立国会図書館の調査でわかりました\*。

無線綴じの資料にはさまざまな接着剤が使用されていますが、中には、数年で接着力が低下したり、硬化したりしてしまうものもあります。このような資料は、のど（綴じのあたり）の部分までしっかり開こうとすると背



写真1

が割れてしまい、そこからページが少しずつはがれ落ちていって、最後には全ページがばらばらになってしまいます（写真1）。

破損した資料を利用できる状態にするためには、いったん背表紙からページをすべて外した



写真2

うえで、糸や接着剤で綴じ直すという、補修をしています（写真2）。

しかし、資料によっては、綴じ直したときにのど付近が見えにくくなる場合があります。無理に本を広げればまた傷んでしまいますので、複写する場合には上向きの複写機を使って、のどに強い負担がかからないよう、より丁寧な作業を行っています。

資料もモノである以上、利用のたびに少しずつ傷んでいくのは避けられません。その一方で、資料を「文化的財産」として後世に伝えていくためには、出版された当時の状態をできる限り維持して保存していくことも、大事なことだと考えています。

（資料提供部図書課）

\* 「国立国会図書館所蔵和図書（1950-1999年刊）の劣化に関する調査研究」『図書館調査研究リポート』No.8 国立国会図書館 2008 [http://current.ndl.go.jp/files/report/no8/lis\\_rr\\_08.pdf](http://current.ndl.go.jp/files/report/no8/lis_rr_08.pdf)

## 国際インターネット 保存コンソーシアム (IIPC) ウェブストー ミング・セッション

9月16日～17日、デンマークのオースにおいて、標記セッション（「ウェブストーミング」はブレインストーミングからの造語）が開催された。参加者は、IIPC加盟機関のうち24機関41名（加盟候補1機関1名を含む）であり、国立国会図書館からは関西館電子図書館課主査の柴田昌樹が参加した。会議ではWeb2.0時代におけるウェブ情報の収集やウェブアーカイブの提供の課題等について議論が行われた。柴田からは、当館のWARP事業の現状や課題、非欧米言語のコンテンツが検索、提供できるウェブアーカイブツールをIIPCが開発することが必要であること等について述べた。

今回の会議の成果をふまえ、IIPCが開発したウェブアーカイブ用ソフトウェアの機能向上等の計画は、2009年5月にカナダ・オタワで開催されるIIPC総会で議長から加盟機関に報告される予定である。

なお、同時期の9月14日～19日、オースで第12回電子図書館研究および先端技術に関する欧州会議（ECDL）が開催され、総務部企画課電子情報企画室の福田亮が参加した。また、18日～19日に開催された関連ワークショップである第8回国際ウェブアーカイビング・ワークショップ（IWAW）には、柴田が参加した。

## 日本資料専門家 欧州会議（EAJRS） 第19回年次総会

9月16日～19日、ポルトガルのリスボンにおいて標記の大会が開催された。ヨーロッパを中心に12か国から40名を越える参加があり、国立国会図書館からは主題情報部参考企画課課長補佐大島康作が出席した。

大会では、18の報告が行われた。その内容は、報告者の所属図書館における日本関係資料コレクションや利用方法の紹介から、現在の課題や取組みについての報告、さらには資料そのものの紹介や研究報告まで、バラエティーに富んだ内容であった。

当館からは「国立国会図書館電子展示会の紹介“Online Gallery of the National Diet Library”」というタイトルで、当館がインターネットで提供している電子展示会の概要について、アクセス統計等とあわせて紹介した。

また、ポルトガル国立図書館、エボラ市図書館・文書館等を訪問し、16・17世紀の日本とポルトガルの交流を示す資料を中心とした所蔵資料についての意見交換や施設の見学をした。

### 「近現代日本政治資料」 に関するワークショップ



10月15日、米国ハーバード大学において、ハーバード大学ライシャワー日本研究所と北米日本研究資料調整協議会（NCC）共催により、主題情報部政治史料課長堀内寛雄を講師として標記のワークショップが開催された。

参加者は、ハーバード大学および近隣の大学において日本研究に携わる教員、学生および図書館員など15名であった。

会場は大型PC12台が設置された研究室で、参加者は講師の話に沿って机上のPCを自ら操作しながら受講する形式であった。午前の部では、当館憲政資料室の概要、憲政資料収集の歴史、憲政資料の検索方法、関連機関サイト等について、主に当館ホームページ掲載の「憲政資料室の所蔵資料の検索」画面に沿って、講義した。また「史料にみる日本の近代」「日本国憲法の誕生」「近代日本人の肖像」等の関連する電子展示会（英文版）の掲載資料について解説し、「近代デジタルライブラリー」等へのリンクについても随時紹介した。

午後の部では、「憲法調査会」「海洋政策」「移民」等の研究テーマを持つ複数の参加者に対して個別相談を行い、テーマに関連したサイトや類縁機関の紹介等を行った。参加者からは、日本研究に役立つ有益な情報を得る良い機会となった旨の感想があった。

### 日中韓三国交流 「デジタルアーカイブ 事業における 日中韓連携」

10月23日～24日、中国国家図書館および韓国国立中央図書館の代表団を迎え、「デジタルアーカイブ事業における日中韓連携」をテーマとした日中韓三国交流が国立国会図書館で行われた。昨年8月に当館の長尾館長が中韓両国の国立図書館に連携について提案し、これまでに、各国のデジタルアーカイブに関する状況調査などの作業を行ってきた。

中国国家図書館から張雅芳副館長、吳斌コンピュータ・ネットワークシステム部技師長、申曉娟業務処副処長、韓国国立中央図書館から李淑鉉国立子ども青少年図書館長、朴振虎デジタル図書館準備企画団専門研究官、柳希京デジタル図書館準備企画団司書主事補、曹在順図書館運営協力課司書、当館から長尾真館長、和中幹雄関西館長、佐藤毅彦電子図書館課長ほか関係者が参加した。

23日に東京本館で行った協議では、連携の経緯、今後の作業、連携実施にあたっての論点等を確認し、三国がこの連携を積極的に進めることについて改めて認識を共有した。

24日は場所を関西館に移し、より実務的な協議を行った。メタデータ基準の

## ■ 平成 20 年度「児童文学連続講座－国際子ども図書館所蔵資料を使って」



小澤氏の講義

共通化、統合的な情報サービスの提供、長期保存等の分野にわたる 11 項目の論点を検討し、方向性を合意した。また、今後の進め方についても確認した。

11月10日～11日、国際子ども図書館において、標記の第5回講座を開催した。この講座は、当館が広く収集してきた内外の児童書および関連書を活用し、全国の各種図書館等で児童サービスに従事する図書館員の資質向上と幅広い知識のかん養に役立てることを目的としている。全国 23 都府県の公共・学校・専門図書館等から 61 名が参加した。

小澤俊夫氏（小澤昔ばなし研究所主宰）の監修により、総合テーマを「日本の昔話」として日本の昔話に造詣の深い研究者と当館職員による講義を行った。

- ・「昔話の語りの様式」、「昔話からのメッセージ」

小澤 俊夫氏（小澤昔ばなし研究所主宰）

- ・「日本の昔話の展開」 大島 建彦氏（東洋大学名誉教授）
- ・「昔話の伝承の実像」 武田 正氏（山形短期大学名誉教授）
- ・「日本昔話のアジア的展望」 君島 久子氏（国立民族学博物館名誉教授）
- ・「参考図書の紹介－日本の昔話を知るためのブックリスト－」

石渡 裕子（国際子ども図書館資料情報課長）

なお、講義録は平成 21 年 10 月に刊行予定である。

## ■ 長尾真国立国会図書館長文化功労者に選出

10月28日、長尾真館長が平成 20 年度の文化功労者に選出された。

受賞理由は、多年にわたり、情報工学、特に画像および言語という情報メディアを用いた知的な情報処理に関する研究において、世界をリードする顕著な業績を挙げ、パターン認識、画像処理、自然言語処理、機械翻訳、電子図書館等の分野の発展および学術振興に多大な貢献をしたことである。

京都大学工学部卒、工学博士。京都大学総長（第 23 代）、独立行政法人情報通信研究機構理事長等を経て 2007 年 4 月から現職。



## お知らせ

---

### 公開講演会

#### 「目録の現在とこれから

#### ー “目録の危機” の時代からの展望ー」

ウェブ上でさまざまな情報が自由に使えるようになってきた近年、情報検索のいわば老舗である図書館の“目録の危機”が問われるようになってきました。

目録は、これまで何を指し、どのような位置づけにあり、将来に向けてどのようなアプローチをしていくのでしょうか。また、FRBR（書誌レコードの機能要件：Functional Requirements for Bibliographic Records）、新目録規則 RDA（資源の記述およびアクセス：Resource Description and Access）など、目録の新しい仕組みの考えかたはどうなっているのでしょうか。さらに、ウェブやメタデータの世界との関係は？

この講演会は、そうした目録の現在とこれからの、わかりやすくとらえ直そうと、図書館員および図書館の情報検索に関心をもつ方々をおもな対象として企画したものです。みなさまのご参加をお待ちしております。

○日 時 平成 21 年 2 月 5 日（木） 13：30～17：00

○会 場 国立国会図書館東京本館 新館講堂

○内容・講師（演題はいずれも仮題）

・総論 目録の動向、位置づけおよび展望

上田 修一氏（慶應義塾大学文学部教授）

・各論 1 新しい目録の考えかたー FRBR、RDA を中心に

渡邊 隆弘氏（帝塚山学院大学人間文化学部准教授）

・各論 2 これからの目録へのアプローチー国立国会図書館の事例を中心に

中井 万知子（国立国会図書館収集書誌部）

○お申込方法

国立国会図書館ホームページの以下のページから、平成 21 年 1 月 29 日（木）までにお申し込みください。

<http://www.ndl.go.jp/jp/service/event/index.html>

当館ホームページ（<http://www.ndl.go.jp>）トップー「クイックリンク」ー「イベント情報」

○お問い合わせ先

国立国会図書館 収集書誌部収集・書誌調整課書誌調整係

電話 03（3581）2331（代表）

## お知らせ

### 国際子ども図書館 学校図書館セット貸出し 「東アジアセット」、 「東南アジア・南アジアセット」 の貸出開始

国際子ども図書館では、世界各国・地域の歴史や文化、生活等を紹介する資料、その国や地域で読まれている児童書等をセットにして、学校図書館に貸し出す学校図書館セット貸出しサービスを行っています。冊数は50冊前後、貸出期間は1か月です。

平成21年1月から「東アジアセット」（小学校高学年向／中学校向）、「東南アジア・南アジアセット」（小学校高学年向／中学校向）の貸出しを開始します。このほかに、「北欧セット」、「カナダ・アメリカセット」（各セットとも小学校高学年向／中学校向）、「世界を知るセット」、「ヨーロッパセット」（各セットとも小学校低学年向／小学校高学年向）があります。なお、「韓国セット」（小学校高学年向／中学校向）、「アジアセット（中国・東南アジア諸国）」（小学校高学年向／中学校向）は貸出しを中止します。

サービスの詳細および資料の解題は、国際子ども図書館ホームページをご覧ください。

○ URL <http://www.kodomo.go.jp/school/rent/index.html>

国際子ども図書館ホームページ (<http://www.kodomo.go.jp/>) - 「学校図書館へのサービス」 - 「学校図書館セット貸出し」

○ お問い合わせ

国立国会図書館国際子ども図書館 児童サービス課企画推進係  
電話 03 (3827) 2053 (代表) FAX 03 (3827) 2043

### 新刊案内 国立国会図書館の 編集・刊行物



レファレンス 694号 A4 76頁 月刊 1,050円 発売 日本図書館協会  
・文化の赤十字  
・ドイツの医療費抑制施策  
・諸外国における実在しない児童を描写した漫画等のポルノに対する法規制の例  
・情報通信法構想と放送規制をめぐる論議

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川 1-11-14 03 (3523) 0812



平成 **20** (2008) 年 **1** 月号 ≫ **12** 月号 NO. **562~573**

**凡 例** 項目別に配列し、各項目の中は、論題・記事名の数字順、アルファベット順、次いで50音順に配列。ただし、連載記事は原則として掲載順に配列した。一般記事のうち、特集はテーマごとにまとめて掲載した。

**記 載 例** 憲政資料室の新規公開資料から (主題情報部政治史料課) 566 ⑤ : 20-21

	記事名	執筆者名	掲載号	掲載月	頁
<b>項 目 一 覧</b>	稀本あれこれ				42
	今月の一冊				42
	一般記事				42
	国立国会図書館館長対談				43
	誌上展示会				44
	開館60周年を記念して「1998-2008」				44
	この10年のトピックスと今後				44
	使う人がいる 守る人がいる				44
	本を魅せる 常設展示案内				44
	本屋にない本				45
	ビジュアル国立国会図書館博物館				45
	館内スコープ				46
	NDL NEWS 当館の最近の動き				46
	月例報告				47
お知らせ				47	

## 表紙一覧



▲ 1月号



▲ 2月号



▲ 3月号



▲ 4月号



▲ 5月号



▲ 6月号



▲ 7月号



▲ 8/9月号



▲ 10月号



▲ 11月号



▲ 12月号



## 稀本あれこれ

国立国会図書館の蔵書の中から貴重な資料を紹介。564(2008年3月)号の第481回で終了。

-479-	『結麗阿曹多』	(膝館寿巳恵)	562 ① : 口絵
-480-	『火山温泉ノ記』	(川本勉)	563 ② : 口絵
-481-	『シェークスピア戯曲集』(1825)	(斉藤真生子)	564 ③ : 口絵



## 今月の一冊

「稀本あれこれ」の後を受けて、565(2008年4月)号から始まったシリーズ。国立国会図書館の蔵書の中から、美しい本、珍しい本、面白いエピソードがある本を広く紹介。

『インゴルズビー伝奇集』	(白岩一彦)	565 ④ : 2-3
F.X.レーン『15世紀ローマ印刷史』(1778)	(折田洋晴)	566 ⑤ : 2-3
『書齋の岳人』-ミノムシ装の展望社本-	(石田暁子)	567 ⑥ : 2-3
「新自由クラブのジャガー・マーク」	(鈴木宏宗)	568 ⑦ : 2-3
フランス官報-1631年~1791年の世界情勢を伝えるフランス最初の週刊新聞-	(白岩一彦)	569/570 ⑧⑨ : 2-3
スミス夫人“The Children’s Japan”(1892)-ちりめん本:海外へ発信された絵本-	(松尾由紀子)	571 ⑩ : 2-3
故実家栗原信充の研究資料(武具・馬具)-『古今要覧稿』の材料を中心に	(大沼宜規)	572 ⑪ : 2-3
Japan City Plans “NIHOMBASHI”-米軍陸軍地図局(AMS)作成の地図と日本-	(小川那瑠)	573 ⑫ : 2-3



## 一般記事

図書館界の最新情報、国立国会図書館の新しいサービス、蔵書、政策、基幹業務などを紹介する企画記事。

新たなビジョンの実現に向けて-活動評価と平成20年度目標・基準-	(総務部企画課)	568 ⑦ : 34-37
図書館における総合的有害生物管理(IPM)第19回保存フォーラムから-害虫を入れない・増やさない	(収集書誌部資料保存課)	572 ⑪ : 32-33
『月報』の刷新にあたって	(編集長)	565 ④ : 40
憲政資料室の新規公開資料から	(主題情報部政治資料課)	566 ⑤ : 20-21
講演とパネルディスカッション 「ウェブアーカイブの現在と展望-国際連携に向けて-」	(総務部企画課)	565 ④ : 26-31
国際子ども図書館展示会 「チェコへの扉-子どもの本の世界-」ができるまで	(国際子ども図書館「チェコへの扉-子どもの本の世界-」展示班)	567 ⑥ : 12-17
国際政策セミナー「英国の青少年をめぐる諸問題」-クレア・ブルマン氏の講演から-	(調査及び立法考査局調査企画課)	562 ① : 6-10
国内出版物をどのくらい所蔵しているの?-納入率調査結果から	(収集書誌部)	566 ⑤ : 10-12
国立国会図書館の平成20年度予算	(総務部会計課)	565 ④ : 24-25
座談会「インターネットによる法令情報の発信-太政官布告から現行法まで-」	(調査及び立法考査局議会官庁資料課)	568 ⑦ : 4-13
誌上 子ども霞が関見学デー 日本で一番大きな図書館を探検しよう	(総務部総務課)	571 ⑩ : 12-14
数字で見る国立国会図書館-『国立国会図書館年報 平成19年度』統計から	(総務部総務課)	573 ⑫ : 20
出版文化と納本制度について考える-納本制度60周年記念 公開座談会から-	(収集書誌部)	569/570 ⑧⑨ : 20-25
世界図書館情報会議-第74回国際図書館連盟(IFLA)大会「国境なき図書館-国際理解への航海」	(国立国会図書館IFLAケベック大会派遣団)	573 ⑫ : 10-18
国立国会図書館における評価と評価指標の活用-国立図書館分科会	(橋詰秋子)	573 ⑫ : 12
民主主義のパートナー-議会への図書館・調査サービス分科会	(廣瀬淳子)	573 ⑫ : 13
21世紀の保存課題-資料保存コア活動、IFLA資料保存分科会関連会議	(中村規子)	573 ⑫ : 14-15
書誌情報、電子図書館の基準づくり-書誌分科会・目録分科会	(中井万知子)	573 ⑫ : 16
ヤングアダルトサービスの展開-児童・ヤングアダルト(YA)図書館分科会	(水戸部由美)	573 ⑫ : 17

### 項目一覧

稀本あれこれ	42	開館60周年を記念して「1998-2008」	44	ビジュアル国立国会図書館博物館	45
今月の一冊	42	この10年のトピックスと今後	44	館内スコープ	46
一般記事	42	使う人がいる守る人がいる	44	NDL NEWS 当館の最近の動き	46
国立国会図書館館長対談	43	本を魅せる常設展示案内	44	月例報告	47
誌上展示会	44	本屋にない本	45	お知らせ	47

蔵書構築と評価		571 ⑩ : 16-28
国立国会図書館の蔵書構築－資料収集の方針	(収集書誌部収集・書誌調整課)	571 ⑩ : 16-17
日本関係資料の所蔵状況－2000年代刊行の新刊書を中心に	(収集書誌部外国資料課)	571 ⑩ : 18-23
科学技術情報の利用動向－逐次刊行物の遠隔複写サービス利用調査から	(主題情報部科学技術・経済課)	571 ⑩ : 24-28
創立60周年を迎え目標を新たに	(長尾真)	562 ① : 1-5
第27回日中業務交流と「世界図書館長フォーラム」－東アジアにおける電子図書館事業の連携を目指して－	(国立国会図書館業務交流団)	563 ② : 6-12
第35回国立国会図書館(CDNL)電子情報時代のグローバルな連携	(ローラーミカ)	573 ⑫ : 19
第41回貴重書等指定委員会報告 新指定貴重書のご紹介	(貴重書等指定委員会)	565 ④ : 18-22
第42回貴重書等指定委員会報告 新指定貴重書のご紹介	(貴重書等指定委員会)	568 ⑦ : 28-30
第43回貴重書等指定委員会報告 新指定貴重書のご紹介	(貴重書等指定委員会)	573 ⑫ : 30-34
第5回韓国国会図書館との業務交流	(調査及び立法考査局調査企画課)	564 ③ : 22-25
大学図書館の現況－平成19年度国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会から	(総務部支部図書館・協力課)	562 ① : 24-25
着実にサービスを改善しています－平成19年度重点目標の評価から－	(総務部企画課)	569/570 ⑧⑨ 26-27
デジタル時代の新聞の保存と利用－アメリカ、ニュージーランド、オーストラリアの取り組み	(五十嵐麻理世)	567 ⑥ : 19-23
特集 書誌調整		564 ③ : 1-20
平成19年度書誌調整連絡会議を終えて	(書誌部書誌調整課)	564 ③ : 2-6
雑誌記事索引のご紹介	(書誌部逐次刊行物課)	564 ③ : 7-12
書誌データベースの遡及入力の実施状況について	(書誌部書誌調整課)	564 ③ : 13-16
最近NDL-OPACで検索可能となった資料群の紹介	(資料提供部図書課)	564 ③ : 17
ユニコードとセマンティックウェブの基礎知識－館内講演会から	(書誌部書誌調整課)	564 ③ : 18-20
日本で一番大きな図書館にできること－第9回図書館総合展－	(総務部総務課)	563 ② : 1-4
「米国における日本研究 過去、現在、将来」－バトリシア・スタインホフ氏の講演から	(総務部支部図書館・協力課)	563 ② : 28-29
米国における日本研究の現状－ピッツバーグ大学の現場から	(グッド長橋広行)	566 ⑤ : 14-18
水濡れ資料を救済するために－救済実習の実施	(収集部資料保存課)	562 ① : 22-23
民間出版物の中性紙使用率95%に－第19回新刊資料中性紙使用率調査結果報告－	(収集書誌部資料保存課)	568 ⑦ : 20-26
来館利用者から見た国立国会図書館－平成19年度利用者アンケートの結果から	(総務部企画課)	562 ① : 11-21
レファレンス協同データベース事業のこれから－システム提供開始から5年目を迎えるにあたって－	(関西館図書館協力課)	563 ② : 17-23
レファ協の子どもたち	(秋田県立図書館 山崎博樹)	563 ② : 24-25
専門図書館としてレファレンス協同データベースに期待すること－労働図書資料室の現状と課題－	(愛知県勤労会館労働図書資料室)	563 ② : 26-27
数字で見る国立国会図書館－国立国会図書館年報統計から		573 ⑫ : 20-21

## 国立国会図書館 館長対談

国立国会図書館長と有識者との対談。今年は、これからの日本の知的情報基盤の変化と国立国会図書館の役割をテーマとした。ゲストの専門分野に応じたテーマで今後も継続予定。

第1回 グローバルで多文化な時代における図書館	文化庁長官 青木保氏	571 ⑩ : 4-10
第2回 人間の知的財産と図書館	印刷博物館館長 樺山紘一氏	572 ⑪ : 4-12
第3回 図書館の役割と未来	米国議会図書館副館長 ディアナ・マークム氏	573 ⑫ : 4-9

記載例	記事名	執筆者名	掲載号	掲載月	頁
	憲政資料室の新規公開資料から	(主題情報部政治史料課)	566 ⑤		20-21



## 誌上展示会

国立国会図書館で開催する展示会の見どころを誌上で再現する。

国際子ども図書館誌上展示会 チェコへの扉－子どもの本の世界－ (国際子ども図書館「チェコへの扉－子どもの本の世界－」展示班)	565 ④ : 11-17
国立国会図書館開館60周年記念貴重書展 学ぶ・集う・楽しむ (展示委員会特別展示小委員会)	569/570 ⑧⑨ : 4-9
国立国会図書館国際子ども図書館展示会 童画の世界－絵雑誌とその画家たち (国際子ども図書館「童画の世界－絵雑誌とその画家たち」展示班)	572 ⑪ : 15-23



## 開館60周年を記念して「1998-2008」 この10年のトピックスと今後

国立国会図書館開館60周年を迎えた2008年、この10年の発展の経緯と今後の展望をトピックごとに連載で紹介。

第1回 国会サービス－立法補佐機関としての国立国会図書館－ (調査及び立法考査局調査企画課)	565 ④ : 4-9
第2回 資料収集の足跡 (収集書誌部)	566 ⑤ : 4-9
第3回 新たなサービスポイント－関西館、国際子ども図書館 (関西館総務課) (国際子ども図書館企画協力課)	567 ⑥ : 4-10
第4回 利用者サービスの10年 (資料提供部利用者サービス企画課)	568 ⑦ : 15-19
第5回 電子図書館サービス (関西館電子図書館課)	596/570 ⑧⑨ : 12-17
第6回 デジタル時代の書誌情報－目録の10年 (収集書誌部)	572 ⑪ : 24-30
第7回 進化する展示会と主題情報提供 (主題情報部)	573 ⑫ : 22-29



## 使う人がいる 守る人がいる

国立国会図書館の蔵書の利用と保存を両立し、劣化や破損を防ぐために行っている、資料を管理する上での様々な工夫を紹介。

第1回 はじめに (収集部資料保存課、総務部総務課)	562 ① : 32-33
第2回 紙の劣化による破損とその対策 (資料提供部図書課)	563 ② : 33
第3回 利用の多い住宅地図の状態と補修対策、資料管理 (主題情報部地図室)	564 ③ : 37
第4回 マンガ雑誌 (資料提供部雑誌課)	565 ④ : 10
第5回 録音資料 (資料提供部音楽・映像資料室)	566 ⑤ : 19
第6回 利用による破損とその対策 (資料提供部図書課)	567 ⑥ : 18
第7回 マイクロ資料 (主題情報部新聞課)	568 ⑦ : 27
第8回 雑誌 (資料提供部雑誌課)	569/570 ⑧⑨ : 18
第9回 電子資料 (関西館電子図書館課)	571 ⑩ : 11
第10回 複写 (資料提供部複写課)	572 ⑪ : 31
第11回 図書(無線綴じ資料) (資料提供部図書課)	573 ⑫ : 35



## 本を魅せる 常設展示案内

東京本館で開催する常設展示の案内。展示のテーマと資料を中心としたコラム。常設展示の終了にともない、569/570(2008年8/9月)号の第31回で終了。

(28)辞書を片手に世界へ－近代デジタルライブラリーにみる明治の語学辞書 (小川加奈子、福田亮、福林靖博)	563 ② : 36
(29)「国技・相撲」－近代以降の事件と名力士 (大森寿恵、中世古亜希子、平岡章夫)	565 ④ : 23
(30)「虫を記録する」－昆虫図鑑古今東西 (小林廉直、小針泰介、安田浩之)	567 ⑥ : 24

項目一覧	稀本あれこれ ————— 42	開館60周年を記念して「1998-2008」 この10年のトピックスと今後 ——— 44	ビジュアル国立国会図書館博物館 — 45
	今月の一冊 ————— 42	使う人がいる守る人がいる ——— 44	館内スコープ ————— 46
	一般記事 ————— 42	本を魅せる常設展示案内 ——— 44	NDL NEWS 当館の最近の動き — 46
	国立国会図書館館長対談 ——— 43	本屋にない本 ————— 45	月例報告 ————— 47
	誌上展示会 ————— 44		お知らせ ————— 47

(31)「すし」-ふるさとの味

(岩浅美輪、刈田朋子、高橋三紗)

569/570 ⑧⑨ : 28



## 本屋にない本

本誌創刊以来続くコーナー。納本制度により収集した出版物の中から、主に取次店を通さず入手しづらい国内出版物の内容を紹介。

『NHK日曜美術館30年展 名品と映像でたどる、とっておきの美術案内』 NHK、NHKプロモーション編・刊 (佐藤菜緒恵)	564 ③ : 30
『イタリアンデザイナーズブック 中小企業のデザイン戦略』日本貿易振興機構富山貿易情報センター刊(芦田淳)	563 ② : 14-15
『稲作とともに伝わった武器 平成19年春季特別展』大阪府立弥生文化博物館編 (福田亮)	572 ⑪ : 14
『江戸の砲術 砲術書から見たその歴史 特別展』板橋区郷土資料館 (石氏将之)	565 ④ : 36
『カメラヤマ株式会社 創業80年史 1927~2007』創業80年史編集室編 (三浦良文)	566 ⑤ : 22
『キップの世界-収集趣味と乗車券印刷機-第55回企画展図録』天理大学附属天理参考館編 (上田貴雪)	571 ⑩ : 30
『国立音楽大学附属図書館所蔵 貴重書解題目録』国立音楽大学附属図書館編 (齊藤ひさ子)	568 ⑦ : 32-33
『シーボルトの水族館 特別企画展』長崎歴史文化博物館編 (藤井朋子)	571 ⑩ : 31
『資料で見る南海高野線のあゆみ』森本宏、平芳資也、加田芳英共著 (吉本紀)	567 ⑥ : 25-26
『神宮文庫の歩み 神宮文庫開庫百周年記念誌』神宮文庫・刊 (小林廉直)	565 ④ : 37
『西洋語まなび事始め: 香川大学図書館一般公開行事神原文庫資料展』香川大学図書館編 (長尾宗典)	573 ⑫ : 28
『大漁の証万祝 特別展』神奈川県立歴史博物館 (渡辺由利子)	566 ⑤ : 23
『中国・年画と紙馬の世界 春節の祈り』那須塩原市那須野が原博物館編・刊 (村上かおり)	562 ① : 27-28
『通天閣-50年の歩み-』通天閣観光株式会社刊 (加藤慶一)	562 ① : 28-29
『直江兼統 特別展』米沢市上杉博物館 (林隣介)	572 ⑪ : 13
『日本装飾屋小史』清水章著 株式会社創元社制作 (石田暁子)	568 ⑦ : 31-32
『日本をヨーロッパに紹介した戦国期の宣教師たち フランシスコ・ザビエル生誕500年記念稀観書展示会 展示目録』京都外国語大学付属図書館編・刊 (三輪和宏)	564 ③ : 32
『美人のつくりかた-石版から始まる広告ポスター展図録』凸版印刷株式会社印刷博物館発行 (岡田薫)	569/570 ⑧⑨ : 19
『福岡ミステリー案内 赤煉瓦事件簿 福岡市文学館企画展』福岡市総合図書館文学・文書課編・刊 (河合将彦)	564 ③ : 31-32
『ふるさと学校写真帳』梶山雅史監修・校閲 岐阜県教育委員会編 (鈴木尊紘)	571 ⑩ : 29
『夢の50年史 高級化粧品アルピオンの歩み 1956-2006』アルピオン夢の50年史編集委員会編纂 (古野朋子)	567 ⑥ : 26-27
『ロマノフ王朝と近代日本』展 版画と写真でたどる日露交流-ロシア国立図書館 所蔵品より 日露修好150周年記念』サンクトペテルブルクロシア国立図書館刊 (嶋本裕子)	563 ② : 15-16
『財団法人満鐵會六十年の歩み』満鐵會編・刊 (平岡章夫)	563 ② : 13-14



## ビジュアル 国立国会図書館博物館

国立国会図書館に残る珍しい物品や懐かしい写真などを中心に紹介。

No.10 Quiet Please 静粛に願ひます (眞子ゆかり)	564 ③ : 38
No.11 切込み器(カードパンチ/半月) (山崎美和)	566 ⑤ : 32
No.12 移動式キャレル (小林昌樹)	569/570 ⑧⑨ : 11

### 記載例

憲政資料室の新規公開資料から

(主題情報部政治史料課) 566 ⑤ : 20-21

記事名

執筆者名

掲載号

掲載月

頁



## 館内スコープ

職員が担当の業務を通して国立国会図書館の仕事を紹介するコラム。当館の舞台裏がかいま見える。

国内資料課		562 ① : 26
利用者サービス企画課		563 ② : 5
書誌部逐次刊行物課整理係		564 ③ : 21
資料収集を支える	(国内資料課収集第一係)	566 ⑤ : 13
個性豊かな言語から見えるもの	(アジア情報課アジア第一係)	567 ⑥ : 11
法令探しの道しるべ	(議会官庁資料課立法情報係)	568 ⑦ : 14
展示会の舞台裏-測る、戸惑う、つなぐ	(主題情報部参考企画課)	569/570 ⑧⑨ : 10
海外への窓	(海外立法情報課)	571 ⑩ : 15
無味乾燥な数字の裏に...	(総務部会計課)	572 ⑪ : 34
海外からのGift-寄贈と国際交換	(外国資料課国際交換係)	573 ⑫ : 29



## NDL News 当館の最近の動き

館が主催、共催した会議・イベント、職員が参加した国内外の会議、その他、館に関わる新しい動き、重要な報告を紹介。

アジア学会(AAS)・東亜図書館協会(CEAL)2008年年次総会および北米日本研究資料調整協議会(NCC)会議	566 ⑤ : 24
感謝状の贈呈	563 ② : 30/ 565 ④ : 35/568 ⑦ : 38
「近現代日本政治資料」に関するワークショップ	573 ⑫ : 31
皇后陛下、「チェコへの扉-子どもの本の世界」展をご鑑賞	569/570 ⑧⑨ : 31
国際インターネット保存コンソーシアム(IIPC)ウェブストーミング・セッション	573 ⑫ : 36
子ども霞が関見学デー	569/570 ⑧⑨ : 31
第3回日中韓資料保存会議	569/570 ⑧⑨ : 30
第4回レファレンス協同データベース事業参加館フォーラム	565 ④ : 34
第15回総合目録ネットワーク参加館フォーラム	565 ④ : 34
第31回国際児童図書評議会(IBBY)世界大会	572 ⑪ : 35
第49回科学技術関係資料整備審議会	566 ⑤ : 24
「当館利用上のお願い」を作成しました	565 ④ : 35
特別研修「資料デジタル化の実務及びデジタルアーカイブシステムについて」	568 ⑦ : 38
長尾真国立国会図書館長文化功労者に選出	573 ⑫ : 38
日中韓三国交流	573 ⑫ : 37
日本資料専門家欧州会議(EAJRS)第19回年次総会	573 ⑫ : 36
平成19年度アジア情報研修「中国の学術情報を入手する」	562 ① : 31
平成19年度科学技術情報研修-専門資料群とテーマ別情報源-	562 ① : 31
平成19年度児童サービス連絡会	562 ① : 31
平成19年度日本研究情報専門家研修	563 ② : 32
平成19年度日本古典籍講習会	564 ③ : 34
平成19年度レファレンス研修	565 ④ : 34
平成20年度「国立国会図書館データベースフォーラム」	572 ⑪ : 35
平成20年度国立国会図書館長と都道府県立及び政令指定都市立図書館長との懇談会	569/570 ⑧⑨ : 30
平成20年度図書館員のための利用ガイダンス	568 ⑦ : 38
平成20年度「児童文学連続講座-国際子ども図書館所蔵資料を使って」	573 ⑫ : 38

項目一覧	稀本あれこれ	42	開館60周年を記念して「1998-2008」	ビジュアル国立国会図書館博物館	45
	今月の一冊	42	この10年のトピックスと今後	館内スコープ	46
	一般記事	42	使う人がいる守る人がいる	NDL NEWS 当館の最近の動き	46
	国立国会図書館館長対談	43	本を魅せる常設展示案内	月例報告	47
	誌上展示会	44	本屋にない本	お知らせ	47



## 月例報告

人事情報、おもな法規の制定・改正を掲載。565(2008年4月)号から、人事は指定職以上、法規は解説を中心とした紹介に。国内外の見学者等を掲載した「遠客近客」は563号まで掲載。

●おもな人事	
異動	565 ④ : 32-33/ 569/570 ⑧⑨ : 29
おもな人事	564 ③ : 33
辞職	562 ① : 30/565 ④ : 32/ 569/570 ⑧⑨ : 29
職員の退職	562 ① : 30/ 563 ② : 30/564 ③ : 33
新副館長就任	562 ① : 30
退職	565 ④ : 32
●法規等の制定	
国立国会図書館職員定員規程の一部を改正する規程(平成20規程1)	566 ⑤ : 25
国立国会図書館職員倫理規程の一部を改正する規程(平成20規程3)	566 ⑤ : 25
国立国会図書館資料利用規則及び国立国会図書館国際子ども図書館資料利用規則の一部を改正する規則(平成20規則2)	569/570 ⑧⑨ : 29
国立国会図書館組織規則の一部を改正する規則(平成20規則1)	566 ⑤ : 25
国立国会図書館組織規程の一部を改正する規程(平成20規程2)	566 ⑤ : 25
国立国会図書館中央館及び支部図書館資料相互貸出規則の一部を改正する規則(平成20規則3)	569/570 ⑧⑨ : 29
国立国会図書館法による出版物の納入に関する規程の一部を改正する規程(平成20規程4)	567 ⑥ : 28
国立国会図書館法の一部を改正する法律(平成20法律20)	567 ⑥ : 28
●遠客近客	563 ② : 30-32



## お知らせ

サービス、イベント、研修、当館が編集・刊行した新刊のお知らせを掲載。常設展示は568(2008年7月)号に掲載した155回で終了。

●サービス、イベント、研修等	
NDL-OPACから国際子ども図書館所蔵資料の複写・貸出申込みができるようになりました	568 ⑦ : 48
NDL-OPACで『雑誌記事索引』1959年から1964年の「自然科学編」データがご利用になれます	562 ① : 34
「PORTA」に検索対象と機能を追加しました	566 ⑤ : 28
アジア言語OPACでヒンディー語、サンスクリット語図書が検索可能となりました	564 ③ : 36
絵本ギャラリー【アメリカの絵本 黄金期への幕開け】提供開始	566 ⑤ : 29
近代デジタルライブラリーで図書10万タイトルが閲覧可能に	569/570 ⑧⑨ : 33
公開講演会「目録の現在とこれから－目録の危機の時代からの展望－」	573 ⑫ : 39
国際子ども図書館 学校図書館セット貸出し「東アジアセット」、「東南アジア・南アジアセット」の貸出開始	573 ⑫ : 40
国際子ども図書館で「子どものための絵本と音楽の会『くすみ割り人形』を開催します	562 ① : 34
国際子ども図書館展示会「2006年度国際アンデルセン賞・IBBYオナーリスト受賞図書展」	568 ⑦ : 42
国際子ども図書館展示会「チェコへの扉－子どもの本の世界」	563 ② : 35
国際子ども図書館展示会「チェコへの扉－子どもの本の世界」関連講演会	567 ⑥ : 29
国際子ども図書館展示会「チェコへの扉－子どもの本の世界」関連講演会の開催について	564 ③ : 35
国際子ども図書館展示会「童画の世界－絵雑誌とその画家たち」	568 ⑦ : 43
国際子ども図書館 夏休み催物「科学あそび」光のふしぎ－みんなで楽しく万華鏡づくり	567 ⑥ : 30
国立国会図書館開館60周年記念行事のご案内	567 ⑥ : 31-32

記載例

憲政資料室の新規公開資料から

(主題情報部政治史料課) 566 ⑤ : 20-21

記事名

執筆者名

掲載号

掲載月

頁

国立国会図書館件名標目表2007年度版を公開	568 ⑦ : 48
国立国会図書館データベースフォーラム－ネットでつながるNDL－	568 ⑦ : 45
「子どものための秋のおたのしみ会」開催	571 ⑩ : 33
「子どものためのこどもの日おたのしみ会」開催	565 ④ : 38
「子どものための春休みおたのしみ会」	563 ② : 34
児童書デジタルライブラリーに約500タイトルの資料を追加しました	572 ⑪ : 36
第12回資料保存研修	568 ⑦ : 46
第19回保存フォーラム「害虫を入れない・増やさない－図書館における総合的有害生物管理－」	568 ⑦ : 44
テーマ別調べ方案内「産業情報ガイド」が50産業分に	568 ⑦ : 40
帝国議会会議録が昭和元年から検索できるようになりました	568 ⑦ : 39
帝国図書館から引き継いだ貴重なコレクション「旧上野本」のマイクロ化が終了	566 ⑤ : 30
展示会「チェコへの扉－子どもの本の世界」ギャラリートーク	563 ② : 34
電子展示会「写真の中の明治・大正－国立国会図書館所蔵写真帳から－関西編」提供開始	565 ④ : 38
「童画の世界－絵雑誌とその画家たち」関連講演会	568 ⑦ : 43
図書館間貸出制度の加入申請方法が変わります	564 ③ : 34
年末年始のご利用について	572 ⑪ : 37
平成20年度アジア情報研修	569/570 ⑧⑨ : 32
平成20年度国立国会図書館職員採用試験の実施について	564 ③ : 26-29
平成20年度「児童文学連続講座－国際子ども図書館所蔵資料を使って」	568 ⑦ : 47
平成20年度の図書館員を対象とする研修計画	566 ⑤ : 26-27
平成20年度 法令・議会・官庁資料研修	571 ⑩ : 32
利用者アンケートご協力をお願い	568 ⑦ : 49
●常設展示	
第152回 辞書を片手に世界へ－近代デジタルライブラリーに見る明治の語学辞書	562 ① : 26/563 ② : 5
第153回 「国技・相撲」－近代以降の事件と名力士－	564 ③ : 21
第154回 虫を記録する－昆虫図鑑古今東西－	566 ⑤ : 30
第155回 すし－ふるさとの味－	568 ⑦ : 41
●国立国会図書館の編集・刊行物→新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物	
NDL CD-ROM Line 点字図書・録音図書全国総合目録 2007年2号～2008年1号	563 ② : 30/568 ⑦ : 50
外国の立法 立法情報・翻訳・解説 第234号～第237号	563 ② : 30/565 ④ : 39/ 569/570 ⑧⑨ : 33-34/ 571 ⑩ : 33
カレントアウェアネス 295号～297号	564 ③ : 33/ 568 ⑦ : 50/571 ⑩ : 34
国立国会図書館開館60周年記念貴重書展 学ぶ・集う・楽しむ	572 ⑪ : 38
国立国会図書館の編集・刊行物 入手案内	563 ② : 別刷8頁
参考書誌研究 第68	566 ⑤ : 31
平成19年度国際子ども図書館児童文学連続講座講義録「絵本の愉しみ(2)－アメリカ絵本の展開－」	572 ⑪ : 38
レファレンス 第683号～第694号	毎号

項目一覧	稀本あれこれ	42	開館60周年を記念して「1998-2008」	ビジュアル国立国会図書館博物館	45
	今月の一冊	42	この10年のトピックスと今後	館内スコープ	46
	一般記事	42	使う人がいる守る人がいる	NDL NEWS 当館の最近の動き	46
	国立国会図書館館長対談	43	本を魅せる常設展示案内	月例報告	47
	誌上展示会	44	本屋にない本	お知らせ	47

## CONTENTS

- 02 Japan City Plans “NIHOMBASHI” - a map created by the U.S. Army Map Service (AMS) and Japan  
(Book of the month - from NDL collections)
- 04 Talks with the Librarian of NDL (3) Dr. Deanna B. Marcum, Associate Librarian for Library Services,  
Library of Congress  
The role and future of libraries
- 10 Libraries without borders: Navigating towards global understanding  
World Library and Information Congress: The 74<sup>th</sup> International Federation of Library Associations and  
Institutions (IFLA) General Conference and Council
- 12 Evaluation in national libraries and utilization of performance indicators - National Libraries Section
- 13 Partners in democracy - Library and Research Services for Parliaments Section
- 14 Issues on preservation in the 21<sup>st</sup> century - IFLA Core Activity on Preservation and Conservation  
(PAC), Preservation and Conservation Section and related sessions
- 16 Drawing up standards for bibliographic information and digital libraries - Bibliography Section,  
Cataloguing Section
- 17 Development of services for young adults(YA) - Libraries for Children and Young Adults Section
- 19 Global cooperation in the age of electronic information  
- The 35<sup>th</sup> Conference of Directors of National Libraries (CDNL)
- 20 The NDL in figures - excerpts from the Annual Report of the NDL
- 22 Series commemorating the NDL's 60<sup>th</sup> anniversary  
“1998-2008” Topics during the last decade and future prospects  
(7) Evolving exhibitions and subject information services
- 30 Materials recently designated as rare books - 43<sup>rd</sup> committee on designation of rare books
- 35 People who use, people who maintain (11) Books (adhesive-bound materials)  
“Cooperation in a Digital Archiving Project between  
NLC,NLK, and NDL”  
• ILCL Lecture Series on Children's Literature  
FY2008 - utilizing the ILCL collections  
• Dr. Makoto Nagao, the Librarian of the NDL,  
designated as a person of cultural merit
- 28 Books not commercially available  
• *Seiyogo manabi kotohajime: kagawa daigaku  
toshokan ippan kokai gyoji kanbara bunko siryoten*
- 29 Tidbits of information on NDL  
Gifts from overseas  
- donation and international exchange
- 36 NDL NEWS  
• International Internet Preservation  
Consortium (IIPC) Webstorming Sessions  
• The 19<sup>th</sup> Annual Conference of the European  
Association of Japan Resource Specialists  
(EAJRS)  
• Workshop on “modern Japanese political  
history materials”  
• China-Korea-Japan Meeting Trilateral
- 39 < Announcements >  
• Open seminar: Cataloging of now and in future -  
perspectives from the age of “crisis in cataloging”  
• International Library of Children's Literature's  
Book Set Lending Service to School Libraries: “East  
Asia” and “South-East Asia and South Asia” sets  
now available  
• Book notice-publications from NDL
- 41 Annual index to National Diet Library Monthly  
Bulletin, nos. 562-573

## 国立国会図書館月報

発行所 国立国会図書館  
編集者 網野光明  
責任者  
東京都千代田区永田町1-10-1  
電話 03(3581)2331(代表)  
FAX 03(3597)5617  
E-mail geppo@ndl.go.jp

平成20年12月号(No.573)

平成20年12月20日発行 定価525円  
(本体500円)

発売 社団法人日本図書館協会  
東京都中央区新川1-11-14  
電話 03(3523)0812(代表)  
FAX 03(3523)0842  
E-mail hanbai@jla.or.jp

印刷所 株式会社平文社

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜ずりして転載される場合には、事前に当館総務部総務課に連絡してください。本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ(<http://www.ndl.go.jp> - 「刊行物」 - 「国立国会図書館月報」)でご覧いただけます。



「江戸名所道戯尽 十四 芝赤羽はしの雪中」から 部分  
歌川広景画 辻岡屋 安政6(1859) 1枚 34.2×24.0cm  
(['江戸名所道外』<寄別 1-9-1-7>所収)

## 国立国会図書館月報

平成20年12月20日発行 (毎月1回20日発行)  
(12月号通巻573号)

発売： 社団法人 日本図書館協会 定価 525円 (本体 500円)